

# 南砺幸せなまちづくり創生総合戦略

## 南砺市総合戦略推進委員会による 事業実施成果検証・評価・意見

(平成28年度事後評価)

南砺市まち・ひと・しごと創生総合戦略本部

主管課	南砺で暮らしません課	関係課	
-----	------------	-----	--

**ア 体系区分**

基本目標	基本目標Ⅰ 心豊かな「結」と「土徳」のまち創造
この基本目標に対応する具体的施策(施策区分)	① 若者の結婚活動を支援 ② 妊娠、出産、子育てに切れ目のない総合的な支援 ③ 高齢者を地域全体で見守る体制づくりを支援 ④ 平均寿命と健康寿命を延ばす ⑤ 南砺を想う子どもを育む ⑥ 暮らしやすさを実感できる地域の創造

※ KPI (重要業績評価指標) は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する「取り組み事業」の全てがKPIに関係するとは限りません。

**イ 指標と達成率**

数値目標 1-1	年間婚姻数	関連する施策区分	①						
指標の説明、確認方法	一年間(4月～翌年3月)に南砺市で受付した婚姻届の件数								
現状値(H26年度)	年度時点の目標数値				5年間の目標値	単位	H28年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度					
176	185	194	202	211	220	件	195	89%	101%
	(前年に対する変化目標)								
	9	9	8	9	9				

達成率の計算方法(一部、例外有り)

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率=(「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」)×100

**ウ 内部評価**

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に A: かなりの効果があった(8割以上) B: まずまずの効果があった(7割程度) C: 少しは効果があった(改善・進展) D: まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E: 効果が見込めない(悪化・停滞)
A	
関係するKPI1「婚活イベント年間参加者数」が伸びていることもあり、総合戦略策定当時や昨年度よりも件数が大きく増え、年度目標を達成していることから事業効果が出ていると考えてA判定。 KPIにより出会いの機会が増えれば婚姻に結びつく確率が上がると想定されることから、より機会の場の設定を推進していく。	

**エ 外部評価**

各委員の評価	◎: 効果があった ○: 少しは効果があった △: 現段階ではまだ判断できない ●: 効果が見込めない
	各委員の意見
◎	婚活イベントのマンネリ化を防ぐ施策を考えてUIターン者の婚姻に結びつけてもらいたい。
○	当然のこととしてこれからも注視すべき指標である。
◎	KPI1の指標からも効果がみられる。サポーター等の活動支援体制の構築を進める。
○	取り組みの効果は表れていると思われるが、長期的にみていくことが必要。
◎	婚活イベントセミナーのさらなるPRと内容充実を図ることが必要。
○	基盤となる若者人口が減少する中、婚姻数が絶対数として増加できたことはすばらしい。持ち家取得時等、次の転機に折角の婚姻者を流出させないよう総合的なフォローを期待。
○	受付数の全てが市内在住者か不明であるが、増加していることは評価できる。
◎	
◎	イベントがいつも楽しそうで、面白いし、PRも上手い。広告も安定感があり、安心して申し込める
○	とても有効であると感じる反面、イベントや出会いの場に行けない人達への対応も考えていけたらよいのでは。
総合評価	評価内容
◎	増加したことは評価。今後も人口増につながるようなフォロー等、長期的にみてもらいたい。

**オ 今後の取り組みと改善点**

数値目標は、年々増加しており、引き続き目標の達成に向け、地域との連携を深めて積極的な取り組みを進めていく。 そのためには、婚活イベントのマンネリ化にならない内容の充実や、婚活地域サポート事業の普及、企業の婚活支援活動を進め、なんとおせつ会等と連携した出会いの場を創出し、結婚意識の醸成を図って多くのカップリングや成婚に導くことにより、非婚化・晩婚化を解消し、婚姻数を伸ばしていきたい。
---

主管課	健康課	関係課	
-----	-----	-----	--

ア 体系区分

基本目標	基本目標Ⅰ 心豊かな「結」と「土徳」のまち創造
この基本目標に対応する具体的施策(施策区分)	① 若者の結婚活動を支援 ② 妊娠、出産、子育てに切れ目のない総合的な支援 ③ 高齢者を地域全体で見守る体制づくりを支援 ④ 平均寿命と健康寿命を延伸 ⑤ 南砺を想う子どもを育む ⑥ 暮らしやすさを実感できる地域の創造

※ KPI (重要業績評価指標) は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する「取り組み事業」の全てがKPIに関係するとは限りません。

イ 指標と達成率

数値目標 1-2	合計特殊出生率	関連する施策区分	②							
指標の説明、確認方法	15～49歳までの女性が産んだ子どもの数を5年間調査し、女性の数で除して算出した値 ※直近5年間の出生割合の平均値を実績値とする。 (H28実績値=H23～H27平均値)									
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値				5年間の目標値	単位	H28年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)	
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度						H31年度
1.44	1.47	1.5	1.54	1.57	1.6	1.6	-	1.47	92%	98%
	(前年に対する変化目標)									
	0.03	0.03	0.04	0.03	0.03					

達成率の計算方法(一部、例外有り)

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率=(「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」)×100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に A:かなりの効果があった(8割以上) B:まずまずの効果があった(7割程度) C:少しは効果があった(改善・進展) D:まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E:効果が見込めない(悪化・停滞)
C	
年度目標は未達成ながらH26の1.44、H27の1.41より伸びており、年度目標の達成率も高い。しかし、H27は対象女性人口が減少したにも関わらず出生数が増えたため数値は向上したが、H28の出生数は再び減少に転じたためC判定。 本指標は、15～49歳までの女性の人口と出生数に左右されるため、引き続き人口減少対策や産み育てやすい支援のさらなる充実が必要である。	

エ 外部評価

各委員の評価	◎:効果があった ○:少しは効果があった △:現段階ではまだ判断できない ●:効果が見込めない
各委員の意見	
△	戦略3は見直すべき。戦略6については、既存事業者のみならず、新たな起業による仲間づくり等をサポートしていくべきではないか。
△	これからも常に数値を注視しあらゆる施策をトータルで実施。
△	外的要因もあり、今後の推移を見守りたい。KPI 2, 3の事業効果のアップを図り成果につなげる。
○	指数の変動により評価が変わる。実数を評価としてもよいのではないか。
○	子育てのし易さをPRしていくことが必要。
△	難しい数値だと思います。1-1が年間婚姻数なのであれば、1-2も、単純な出生数や、出生数を15～49歳の女性人口で除す割合値など、単年度で見える補助指標を設けては?
△	全国的な問題点であり、出生率で追う数値目標である限り、同様の結果となるのではないか。
△	
△	金銭的な援助は多いが、その場合、女性は主婦かパートになることが前提で、女性の生き方によりそっているとは思えない。
△	分け隔てなく南砺で育つ子を支える姿勢は感じられるが、色々なしびりがあって対象とならなかったりと、有効であると言えない。事業3に関しても、出生数を高める為の事業であるのに、出生数の減少が理由になるのはおかしいのでは?
総合評価	評価内容
△	女性の生き方によりそのような事業を見直すなどし成果につなげてほしい。ただし出生率による評価は難しい面もあるのでは。

オ 今後の取り組みと改善点

合計特殊出生率は、複数の数値が絡むことや、小規模団体は年によって数値のばらつきが大きいことから数値を上げるための課題を絞り込むのが困難であるが、出生数にすることで実数は評価しやすく、目標達成のための課題も整理しやすくなると考え目標を「年間出生数」に変更したい。 年間出生数300人を基準として、関連事業のさらなる推進を図る。個別の子育て支援策は充実しているので、ターゲットを絞ることなどにより、必要な情報が対象者へきちんと伝わるよう周知をしていきたい。
---

主管課	地方創生推進課	関係課	
-----	---------	-----	--

**ア 体系区分**

基本目標	基本目標 I 心豊かな「結」と「土徳」のまち創造
この基本目標に対応する具体的施策(施策区分)	① 若者の結婚活動を支援 ② 妊娠、出産、子育てに切れ目のない総合的な支援 ③ 高齢者を地域全体で見守る体制づくりを支援 ④ 平均寿命と健康寿命を延ばす ⑤ 南砺を想う子どもを育む ⑥ 暮らしやすさを実感できる地域の創造

※ KPI (重要業績評価指標) は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する「取り組み事業」の全てがKPIに関係するとは限りません。

**イ 指標と達成率**

数値目標 1-3	住み続けたいと思う市民の割合					関連する施策区分	③④⑤⑥			
指標の説明、確認方法	(市民意識調査) 今後も現在住んでいる地域に住み続けたいと思うと回答した数/有効回答数									
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値					5年間の目標値	単位	H28年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度					
72.3	73.8	75.4	76.9	78.5	80	80	%	70.9	89%	94%
	(前年に対する変化目標)									
	1.5	1.6	1.5	1.6	1.5					

達成率の計算方法(一部、例外有り)

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率=(対象年度の実績値) / 「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」 × 100

**ウ 内部評価**

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に A: かなりの効果があった(8割以上) B: まずまずの効果があった(7割程度) C: 少しは効果があった(改善・進展) D: まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E: 効果が見込めない(悪化・停滞)
D	
総合戦略策定当時より悪化しておりD判定。H25との比較では、年齢別にみると20代以外の全ての世代で悪化。また、地域別にみると福光地域において落ち込んでいる。関係するKPI 3~5は順調であるが、それが数値目標に現れていないことから、数値目標の向上に繋がるKPIを追加する必要がある。	

**エ 外部評価**

各委員の評価	◎: 効果があった ○: 少しは効果があった △: 現段階ではまだ判断できない ●: 効果が見込めない
	各委員の意見
△	この目標自体、言わば総合的な評価によるものと言え、KPI 3~5と直接ひもづけるのはそもそも無理がある。
●	この様な数値目標には意味もないし、事態を把握するのは困難。
△	KPI 6、効果が今一つ。地域に対するマイナス(不便等)イメージを払しょくする事業を検討。年代別に効果の判定を図る。
△	地域的な差があると思われるので、その理由を分析していただきたい。
△	住み続けたいと思わない理由を掘り下げて検証すべき。
△	20代の若者と、65歳以上の高齢者では「住み続けたい」と思う基準は異なる。内部評価にある20代が改善は◎、さらに子育て世代への波及を。理想は老若男女全ての改善であるが。
△	意識調査では、質問の仕方や方法によって正確につかみ難い。
●	
△	将来の不安をカバーする事業もよいが、住みたいと思える地域は、心豊かで幸福度が高い地域だと思うので。
△	子どものふるさと教育はとても大切。どんどん外へ出て、実際に見たり体験したり人と関わったりしながら五感で感じ、何度も良さやスゴさを実感していく内容に!! 他には評価しにくい事業が多くて△
総合評価	評価内容
△	理由を掘り下げて分析をすべき。ただしKPIとのひもづけには無理がある。

**オ 今後の取り組みと改善点**

推進委員会においても「全体に係る目標」「目標とすることに意味がない」等の指摘があり、目標の具体化を図るため目標を「健康寿命の延伸」に変更したい。

主管課	南砺で暮らしません課	関係課	
-----	------------	-----	--

**ア 体系区分**

施策区分	施策 I-① 若者の結婚活動を支援
この施策の中で取り組む事業	1 あなたと私を結び赤い糸プロジェクト (AIP48) 2 婚活応援団なんとおせっ会プロジェクト

※ KPI (重要業績評価指標) は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する「取り組む事業」の全てがKPIに関係するとは限りません。

<b>KPI 1</b>	<b>婚活イベント年間参加者数</b>									
指標の説明、確認方法	市及び民間団体が実施する婚活イベント等への年間参加者数 (4月～翌年3月)									
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値					5年間の目標値	単位	H28年度実績値	5年間の目標値に対する達成率 (%)	年度時点の目標数値に対する達成率 (%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度					
	700	800	900	1000	1100					
441	(前年に対する変化目標)					1100	人	780	71%	98%
	259	100	100	100	100					

達成率の計算方法 (一部、例外有り)

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率 = (「対象年度の実績値」 / 「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」) × 100

**ウ 内部評価**

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に A: かなりの効果があった (8割以上) B: まずまずの効果があった (7割程度) C: 少しは効果があった (改善・進展) D: まだ効果が出ていない (現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E: 効果が見込めない (悪化・停滞)
A	
年度目標の9割以上を達成しておりA判定。関連する戦略事業No. 1、2共に伸びているが、これからは更にニーズに合った出会いの場の創出を図るため、地域婚活サポーターや企業サポーターの活動ともリンクさせ、カップリング数を増やし、婚姻に結びつけていく。	

**エ 外部評価**

各委員の評価	◎: 効果があった ○: 少しは効果があった △: 現段階ではまだ判断できない ●: 効果が見込めない
各委員の意見	
◎	カップリング～出産という一連の流れをトータルにフォローアップしてもらいたい。
○	努力は評価できる
◎	年度目標は達成されている。女性参加者、次号のマンネリ化を懸念。地域婚活サポーター等の頑張りに係る部分が大。支援体制の強化が望まれる。
◎	活動の成果がでていられるので今後期待する。
◎	カップリング成功事例をPRに盛り込むなどの工夫を行い気運を盛り上げていくことが必要。
◎	地道で大変だがとても重要な活動。婚活イベントの事務局、おせっ会さん等、現場で奮闘する方々の意見を汲み上げ、彼らへの支援強化と、やりがいをも市にはより支援いただきたい。
◎	今後も期待する。マンネリにならないように工夫していかなければならない。
◎	
◎	若い人が、もう少し気軽な街コンとか、自然な出会いに行きたい、と言ってました。
◎	
総合評価	評価内容
◎	成果が出ていると評価。支援体制の強化やマンネリにならない工夫など、今後期待。

**オ 今後の取り組みと改善点**

年度目標の9割以上を達成し、関連する各事業も共に伸びており、引き続き目標の達成に向け継続的な取り組みを進めていく。 これからも更にニーズに合ったマンネリ化にならない出会いの場の創出を図り、隣接市である小矢部市や砺波市とも広域的な連携を図り進めていくことにより、より出会いの機会を多く設け、カップリング数、婚姻数の増加に結びつけていきたい。
--

主管課	健康課	関係課	医療課、こども課
-----	-----	-----	----------

ア 体系区分

施策区分	施策 I-② 妊娠、出産、子育てに切れ目のない総合的な支援			
この施策の中で 取り組む事業	3	産婦人科医の新規開業支援	9	保育料等軽減事業
	4	南砺市型「ネウボラ」推進事業	10	認可外保育施設に通う子どもにかかる利用料（保育料等）支援事業
	5	南砺の三人っ子政策	11	なんとで育児and育自（子育て交流サロン）
	6	ひとり親世帯子育て応援制度	12	イクメン応援事業
	7	出生祝い金制度	13	マイナンバーカード連携「なんとすこやか親子支援事業」
	8	こども医療費助成制度	14	すこやか子育て応援券交付事業

※ KPI（重要業績評価指標）は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する「取り組む事業」の全てがKPIに関係するとは限りません。

KPI 2		家族が協力して子どもを育てている割合								
指標の説明、 確認方法		（保健センター実施：1歳6か月児、3歳6か月児健診で実施するアンケート調査）子育てに「家族の協力は得られますか？」という質問に「得られる」「ある」と回答するお母さんの割合								
現状値 （H26 年度）	年度時点の目標数値					5年間の 目標値	単位	H28 年度 実績値	5年間の目標値 に対する 達成率（%）	年度時点の目標 数値に対する達 成率（%）
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度					
97.4	97.9	98.4	99	99.5	100	100	%	96.2	96%	98%
	（前年に対する変化目標）									
	0.5	0.5	0.6	0.5	0.5					

達成率の計算方法（一部、例外有り）

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率＝（対象年度の実績値）／「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」× 100

ウ 内部評価

年度時点の達成率 に対する事業効果	総合戦略に	A：かなりの効果があった（8割以上） B：まずまずの効果があった（7割程度） C：少しは効果があった（改善・進展） D：まだ効果が出ていない（現段階ではまだ判断できない・未実施含む） E：効果が見込めない（悪化・停滞）
C		
総合戦略策定時の97.4%及び前年度実績の97.8%を下回っているが、年度目標値に対する達成度が高いことからC判定。イクメン応援事業の受講者数は毎年伸びており、子育てへの理解が深まっている。また、職場におけるイクボス・イクメンへの意識が高まってきている。反面、母親と父親の育児の協働化を促す戦略事業No.13「すこやか親子支援ポータル」の登録者数が増えていない。アウトリーチにより登録を促進するとともに、利用対象年齢の拡大等、事業の充実を図る必要がある。		

エ 外部評価

各委員 の評価	◎：効果があった ○：少しは効果があった △：現段階ではまだ判断できない ●：効果が見込めない
	各委員の意見
△	KPI数値云々よりは、戦略事業3～13について、実効性を高めるべき。そのためには、実態調査、各事業の告知の徹底等 を図るべき。事業13は目標値の見直しが必要ではないか。
△	こつこつとやればよい。重要な施策とさわぐことでない。
○	戦略事業4、5、7、9でいずれも目標を達成している。戦略事業6、12で目標値の設定・評価が不十分。
○	高い割合を示しており一定の評価ができる。
○	アンケートだけでなく、他の指標も検証すべき。
○	「夫の家事・育児参加時間」と第二子以降の出生状況に、「三世同居・近居」が第三子以降の出生状況に、それぞれ影響ア リ、との内閣府の調査も。もう少し落とし込んだ補助指標設定を。
○	社会全体の後押しもあり、推進されるものと考えているが、意識変革が必要なので、徐々に浸透を図る。
△	
△	2世帯の場合はとても良いが、南砺市の男性が家事や育児に協力的な印象はない。
△	父親の育児参加は「イクメン」の意識とは関係なく年々積極的になっていると感じている。子育てを楽しむことは大事なこと だが、「子を育てる」父親・母親としての関わり方、方向性など根本を学ぶ機会が重要。
総合評価	評価内容
○	一定の評価をするが、指標の設定・評価には検証が必要。あわせて事業の告知の徹底等も見直 しを。

オ 今後の取り組みと改善点

<p>県調査における子どもを増やすにあたっての課題の第1位に「子育てや教育にお金がかかりすぎる」、第2位に「働きながら 子育てができる職場環境がない」が上げられている。</p> <p>現在のKPIでは、高い目標値をクリアしていることもあり、より事業の浸透を図り細かく分析するために「産み育てやす い子育て環境であると答えた市民の割合」（人為的及び経済的支援）と「就労しながら無理なく子育てできると答えた市民の 割合」（環境的支援）の2つにKPIを分け、この体系区分にある戦略事業も各々に係るものに整理していきたい。</p>
---

主管課	地域包括ケア課	関係課	南砺で暮らしません課
-----	---------	-----	------------

ア 体系区分

施策区分	施策 I-③ 高齢者を地域全体で見守る体制づくりを支援
この施策の中で 取り組む事業	15 介護予防・日常生活支援活動拠点施設改修及び備品等整備事業
	16 介護人材育成タウンメント
	17 三世同居奨励金及び推進リフォーム助成事業
	18 孫とふるさと学習支援事業

※ KPI (重要業績評価指標) は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する「取り組む事業」の全てがKPIに関係するとは限りません。

KPI 3		地縁組織による介護事業所数									
指標の説明、 確認方法		地域支援事業の介護予防・日常生活支援総合事業（新しい総合事業）のうち、多様なサービスのAとB及び一般介護予防事業の地域介護予防活動支援事業の週1回以上のサロンを実施する地縁組織等の事業所数の合計									
現状値 (H26 年度)	年度時点の目標数値					5年間の 目標値	単位	H28 年度 実績値	5年間の目標値 に対する 達成率(%)	年度時点の目標 数値に対する達 成率(%)	
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度						
0	0	3	7	11	15	15	事業所	8	53%	267%	
	(前年に対する変化目標)										
	-	3	4	4	4						

達成率の計算方法（一部、例外有り）

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率＝（対象年度の実績値）／「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」×100

ウ 内部評価

年度時点の達成率 に対する事業効果	総合戦略に	A：かなりの効果があった（8割以上） B：まずまずの効果があった（7割程度） C：少しは効果があった（改善・進展） D：まだ効果が出ていない（現段階ではまだ判断できない・未実施含む） E：効果が見込めない（悪化・停滞）
A		
H28.4より移行開始した介護予防・日常生活支援総合事業（新しい総合事業）の取り組み初年度としては、地域への広がりが認められA判定。具体的には、サービスA 3箇所、サービスB 2箇所、週1サロン 3箇所となった。特にサービスBについては、県内全4箇所のうち、2箇所が南砺市で実施されており、順調に取り組みが広がっている。		

エ 外部評価

各委員 の評価	◎：効果があった ○：少しは効果があった △：現段階ではまだ判断できない ●：効果が見込めない
各委員の意見	
◎	各事業のきめ細かなフォローや市内各在町への波及、告知等の拡大を推進していくべき。
●	週1サロンは当初カウントする事業なのか？介護サービスとして認定されているか？全然進んでいない。
○	戦略事業15での取り組みに効果がみられる。今後継続した取り組みに期待。戦略事業17は継続して周知を図る。
○	今後とも目標に向けた取り組みに期待する。
◎	さらなる取り組み強化・拡充に期待。
○	数値として順調な出だしは◎、ただ、介護スタートでは支援者側のハードルも高い。前段としての、町内会・老人会など、既存互助組織の活性化や啓発とも施策間連携を強化しては？
△	有効に働いている部分もあるが、全体への浸透がまだ判定し難い。
◎	
◎	今の60代~の女性の方が、とても良い取り組みをされていて素晴らしい。
○	
総合評価	評価内容
○	順調な出だしと評価。既存自治組織の活性化と連携するなど、今後もさらなる取り組みに期待する。

オ 今後の取り組みと改善点

第7期南砺市高齢者保健福祉計画策定のために実施した「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の報告を市内31地区で行うこととしており、地区毎の課題等を分析し、実情に応じたサービスの充実に向け情報提供を行う。また、一般市民向けの介護職員初任者研修については、上記報告・座談会等にてPRの強化を図る。 2つの事業に共通するKPIとして、誤解のない名称に変更し、より厳しい目標値に修正した。
--

主管課	健康課	関係課	
-----	-----	-----	--

**ア 体系区分**

施策区分	施策 I-④ 平均寿命と健康寿命を延伸
この施策の中で取り組む事業	19 「あなたのからだをナビゲート」事業

※ KPI（重要業績評価指標）は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する「取り組む事業」の全てがKPIに関係するとは限りません。

KPI 4		健康寿命の延伸									
指標の説明、確認方法		健康寿命とは、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間であり、年齢階級別の人口、5年間の死亡数、65歳以上の要介護認定者数等により算出する。 ※ KPIの検証は、毎年公表される簡易生命表、住基台帳人口等により毎年算定することとしたい。									
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値					5年間の目標値	単位	H28年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)	
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度						
男性 77.97歳 女性 82.97歳 (H22)	0	0	0	0	0	男女とも1歳伸ばす	歳	未	-	-	
	(前年に対する変化目標)										
	-	-	-	-	-						

達成率の計算方法（一部、例外有り）

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率＝（対象年度の実績値）／「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」× 100

**ウ 内部評価**

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に	A：かなりの効果があった（8割以上） B：まずまずの効果があった（7割程度） C：少しは効果があった（改善・進展） D：まだ効果が出ていない（現段階ではまだ判断できない・未実施含む） E：効果が見込めない（悪化・停滞）
D		
<p>H27実績で、男性79.60歳、女性83.45歳であり、男性はH31目標値を達成している。特定健診受診率・特定保健指導実施率は県下1位の高さであり、生活習慣病の発症・重症化予防の取組や健康意識の高揚により、非自立の介護認定者が高齢化しており、特に男性において顕著であった。</p> <p>戦略事業No.19「あなたのからだをナビゲート事業」の健康ポータルサイトの運用はH28末であり、本実績には結びついていないためD判定。H29以降において利用促進を図り、市民の健康づくりを推進していく。</p>		

**エ 外部評価**

各委員の評価	◎：効果があった ○：少しは効果があった △：現段階ではまだ判断できない ●：効果が見込めない	
	各委員の意見	
△	自助、共助の浸透度合いを包括医療ケアセンター等を通じてきめ細かくウオッチする必要。同時に新事業の活用拡大へ始動する。	
△	これからも着実に事業を進めていくべきだ。数値目標になじまない。	
△	今後の取り組みを見守りたい。	
△		
△	住民意識を高める工夫が必要。	
△	膨大な要素が絡む難しい指標だが、傘下指標が健診受診率とツール利用者と、雑な印象。高齢者就労率や、社会活動参加、生活保護率等との相関の報告。多様で柔軟な施策展開を。	
△	今後の調査・取り組みに期待する。	
●		
●	かなりの健康マニアなら利用するかもしれない。	
△		
総合評価	評価内容	
△	自助、共助といった住民意識が高まるよう注視すべき。新事業など多様で柔軟な施策展開を。	

**オ 今後の取り組みと改善点**

健康ポータルサイトの本格運用により、市民の利用を促進し健康意識の高揚を図る。ポータルサイト利用者に対するがん検診個人負担金減額制度に加え、健康づくりへの取組を推進するためのインセンティブとして新たに健康ポイント制度を導入し、がん検診受診率の向上を図る。がんによる早世の抑制と、元気な高齢者を増やすことにより、健康寿命の延伸を目指す。目標を明確にするため、数値目標を「健康寿命の延伸」に、健康寿命と相関関係にある「がん検診受診率」をKPIに変更したい。



主管課	教育総務課	関係課	
-----	-------	-----	--

**ア 体系区分**

施策区分	施策 I-⑤ 南砺を想う子どもを育む
この施策の中で 取り組む事業	20 ふるさと教育推進事業
	21 学校間をつなぐ遠隔協働学習
	22 NORINTEN で ふるさと教育
	23 山村留学定住事業

※ KPI (重要業績評価指標) は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する「取り組み事業」の全てがKPIに関係するとは限りません。

<b>KPI 5</b>		<b>子どもたちからのふるさと振興への提案数</b>								
指標の説明、 確認方法		『未来の南砺市のまちづくり』について小中学生が考え、市長へ提言する学校の提言数								
現状値 (H26 年度)	年度時点の目標数値					5年間の 目標値	単位	H28 年度 実績値	5年間の目標値 に対する 達成率(%)	年度時点の目標 数値に対する達 成率(%)
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度					
0	4	8	12	16	20	20	件	5	25%	63%
	(前年に対する変化目標)									
	4	4	4	4	4					

達成率の計算方法(一部、例外有り)

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率=(「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」)×100

**ウ 内部評価**

年度時点の達成率 に対する事業効果	総合戦略に	A:かなりの効果があった(8割以上) B:まずまずの効果があった(7割程度) C:少しは効果があった(改善・進展) D:まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E:効果が見込めない(悪化・停滞)
<b>B</b>		

H28年度から小中学校各1校が市長への提言を行うことになった。達成度からはB判定だが、ふるさと学習の成果を市長に直接提言できる貴重な機会となっている。  
また、本KPIは戦略事業No.20「ふるさと教育推進事業」の成果指標と同じであるが、その成果指標は目標値や確認方法をH28に変更しており、本KPIについても同様に見直す必要がある。

**エ 外部評価**

各委員 の評価	◎:効果があった ○:少しは効果があった △:現段階ではまだ判断できない ●:効果が見込めない
<b>各委員の意見</b>	
○	校長以下の先生方、親御さんたちへの理解浸透と併せて、子どもたち同士の横縦の連携を仕掛けができないか。
△	やるからには本気で進めるべき。教育委員会のやる気が感じられない。
○	戦略事業20, 21は一定の効果があげられている。戦略事業22, 23は今後の取り組みを全体で支援する体制に。
○	日常的取り組みとして積み重ねることが重要。
○	提案の数を指標にするのは疑問。
◎	着実に進められている様子。環境・健康等の面で子どもの意識変革が親・祖父母世代へ波及する報告も。本事業の順調な成果と、子ども達の素直な感覚を市民全体へ波及させられないか。
○	小中高と機会を設けて広報されており、気運は高まってきていると思われる。
△	提言数増と同じく、しっかりフィードバックし、子どもの考えたことから成果をだす仕組み必要では。
○	子どもの意識が高くて頭が下がります。
○	子どもたちの提言がどう反映されるのか。提言して終わりではなく、子どもたちも行政も市民もその後が大切。
<b>総合評価</b>	<b>評価内容</b>
○	一定の効果があると評価。親世代への浸透や、提案のフィードバックなどさらなる取り組みを。

**オ 今後の取り組みと改善点**

「子どもたちからのふるさと振興への提案数」を上げることが、数値目標の達成につながらないため廃止する。廃止に伴いこの体系区分にある戦略事業を他のKPI(19、20-1)へ移動し、長期的な取組として、転出の減少やUターンの増加につなげたい。
--

主管課	地方創生推進課	関係課	
-----	---------	-----	--

**ア 体系区分**

施策区分	施策 I-⑥ 暮らしやすさを実感できる地域の創造
この施策の中で 取り組む事業	24 なんバスで暮らそう事業
	25 主要地方道金沢井波線バス実証実験運行事業
	26 JR城端線駅舎Wi-Fi整備事業

※ KPI (重要業績評価指標) は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する「取り組み事業」の全てがKPIに関係するとは限りません。

<b>KPI 6</b>		<b>住み続けたいと思う市民の割合 (再掲)</b>								
指標の説明、 確認方法		(市民意識調査) 今後も現在住んでいる地域に住み続けたいと思うと回答した数/有効回答数								
現状値 (H26 年度)	年度時点の目標数値					5年間の 目標値	単位	H28 年度 実績値	5年間の目標値 に対する 達成率 (%)	年度時点の目標 数値に対する達 成率 (%)
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度					
	73.8	75.4	76.9	78.5	80					
72.3	(前年に対する変化目標)					80	%	70.6	88%	94%
	1.5	1.6	1.5	1.6	1.5					

達成率の計算方法 (一部、例外有り)

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率 = (対象年度の実績値) / 「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」 × 100

**ウ 内部評価**

年度時点の達成率 に対する事業効果	総合戦略に	A: かなりの効果があった (8割以上) B: まずまずの効果があった (7割程度) C: 少しは効果があった (改善・進展) D: まだ効果が出ていない (現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E: 効果が見込めない (悪化・停滞)
D		
総合戦略策定当時より悪化しておりD判定。H25との比較では、年齢別にみると20代以外の全ての世代で悪化。また、地域別にみると福光地域において落ち込んでいる。戦略事業No. 24~26全ての事業で進捗が遅れがあり、早急に事業を推進する必要がある。		

**エ 外部評価**

各委員 の評価	◎: 効果があった ○: 少しは効果があった △: 現段階ではまだ判断できない ●: 効果が見込めない
	各委員の意見
△	事業25, 26は利用者のターゲットを明確にさせ、そこへのリーチの方策等を練り実行していくべき。
●	この様な数値目標には意味もないし、事態を把握するのは困難。
△	戦略事業24, 25いずれも目標に達しておらず情報発信等に工夫が必要。各事業と住民意識が一致しているか検証すべきでは。
△	地域交通の充実は難しい課題と思うが、粘り強く取り組んでもらいたい。
△	
○	全市民が年2回ずつ追加でバスに乗れば容易に黒字化するなんバス事業。公共交通全体や、地区特性に応じた柔軟な改廃、部分的な自主運行化許容等、市民意識の改革がまず必要?
△	各々のKPIと結びつき難いのではないかな。
●	
●	この事業はよいと思うが、「住み続けたい」に直接結びつくかはわからない。
△	
総合評価	評価内容
△	市民意識の検証、あるいは改革が必要では。KPIと事業の関連には疑問も。

**オ 今後の取り組みと改善点**

再掲であり、数値目標を上げるための戦略・方法論となっていないため廃止する。 廃止に伴いこの体系区分にある戦略事業を他のKPI (20-3) へ移動し、公共交通等の住環境の充実による転出の減少やUターンの増加につなげたい。
---

主管課	商工課	関係課	地方創生推進課
-----	-----	-----	---------

**ア 体系区分**

基本目標	基本目標Ⅱ 多様な仕事を育む地域課題解決のまち創造
この基本目標に対応する具体的施策(施策区分)	① 起業・コミュニティービジネス支援と就業支援 ② 企業誘致の推進と新たなビジネスを支える地域創生ファンドの組成 ③ 南砺版エコノミックガーデニングの構築 ④ クリエイターの集積による新たな魅力の創造 ⑤ 五箇山&南砺ブランド商品の開発と販売促進 ⑥ 職人育成と伝統工芸の維持

※ KPI (重要業績評価指標) は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する“取り組み事業”の全てがKPIに関係するとは限りません。

**イ 指標と達成率**

数値目標 2-1	若者、女性の就業率	関連する施策区分	①②							
指標の説明、確認方法	23歳以上の若者(35歳以下)と女性のうち、給与・農業・事業所得がある人数から給与収入額が103万円以下の人数を除き、当該対象の総数で除した割合									
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値				5年間の目標値	単位	H28年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)	
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度						H31年度
46.6	47.3	48	48.6	49.3						50
	(前年に対する変化目標)					50	%	47.1	94%	98%
	0.7	0.7	0.6	0.7	0.7					

達成率の計算方法(一部、例外有り)

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率=(「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」)×100

**ウ 内部評価**

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に	A:かなりの効果があった(8割以上) B:まずまずの効果があった(7割程度) C:少しは効果があった(改善・進展) D:まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E:効果が見込めない(悪化・停滞)
D		
総合戦略策定時から、補助申請がない事業(戦略事業No.31,32,37,41,43,46,47,49など)があることからD判定。事業PRを強化するとともに、事業内容を見直す必要がある。		

**エ 外部評価**

各委員の評価	◎:効果があった ○:少しは効果があった △:現段階ではまだ判断できない ●:効果が見込めない
各委員の意見	
△	新規起業、働きやすさ改善、雇用促進等の事業を細分化せずに、各課間連携のもと、集約・結合しつつ27~44事業を再度見直すべきではないか。地域内外での対応の仕方の工夫、地域内での告知等の強化等が必須。
●	いまだ着手できない、制度設計できない事業は根本的見直し。
○	KPI7、効果に偏りがみられる。総合的に事業展開が図られるよう情報共有すべき。
△	補助事業をステップとして目標達成を目指してもらいたい。
△	事業PRの不足が問題。
△	奨学金支援、母子家庭支援、起業支援などは漢方薬のような浸透効果が将来的に数値目標に反映することを期待。その他施策も、更なる効果向上のため、施策間連携を。羽咋市の道の駅を核にした一連の施策展開事例が参考になるのでは?
△	戦略事業の見直しが必要。より身近な問題取り組みから始める。
●	
△	さまざまな取り組みがあって、おもしろいが、地域の若者で興味を持つ人は少ない。なので、教育で、アートやクリエイティブを強化してほしい。
△	
総合評価	評価内容
△	各課間、施策間の連携と、事業の見直しが必要。

**オ 今後の取り組みと改善点**

<ul style="list-style-type: none"> <li>数値目標の出し方を、これまで女性の区分が全対象であったものを、65歳未満に変更する。</li> <li>事業実績のないNo.31及びNo.32については別事業と統合。</li> </ul>
---

主管課	商工課	関係課	
-----	-----	-----	--

**ア 体系区分**

基本目標	基本目標Ⅱ 多様な仕事を育む地域課題解決のまち創造
この基本目標に対応する具体的施策(施策区分)	① 起業・コミュニティービジネス支援と就業支援 ② 企業誘致の推進と新たなビジネスを支える地域創生ファンドの組成 ③ 南砺版エコノミックガーデニングの構築 ④ クリエイターの集積による新たな魅力の創造 ⑤ 五箇山&南砺ブランド商品の開発と販売促進 ⑥ 職人育成と伝統工芸の維持

※ KPI (重要業績評価指標) は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する“取り組み事業”の全てがKPIに関係するとは限りません。

**イ 指標と達成率**

数値目標 2-2	新規起業(家)数	関連する施策区分	③④						
指標の説明、確認方法	これまでに、起業家育成支援事業、空き店舗対策支援事業及び小規模事業者後継者支援事業の補助制度を活用し、起業又は事業継承された事業所数、および、それ以外にH27年度以降に商工会に新規で加入された数の合計								
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値				5年間の目標値	単位	H28年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度					
15	32	49	66	83	100	件	84	84%	171%
	(前年に対する変化目標)								
	17	17	17	17	17				

達成率の計算方法(一部、例外有り)

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率=(対象年度の実績値) / 「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」) × 100

**ウ 内部評価**

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に A: かなりの効果があった(8割以上) B: まずまずの効果があった(7割程度) C: 少しは効果があった(改善・進展) D: まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E: 効果が見込めない(悪化・停滞)
A	
年度目標を達成しておりA判定。商工会等で事業者の悩みを自分の事として支援を行なう「伴走方支援」を強化したことにより、伸びている。	

**エ 外部評価**

各委員の評価	◎: 効果があった ○: 少しは効果があった △: 現段階ではまだ判断できない ●: 効果が見込めない
	各委員の意見
○	新規起業、働きやすさ改善、雇用促進等の事業を細分化せずに、各課間連携のもと、集約・結合しつつ27~44事業を再度見直すべきではないか。地域内外での対応の仕方の工夫、地域内での告知等の強化等が必須。
○	評価できる。84件の中身について一覧表を提示してもらいたい。
◎	各事業が着実に効果を上げている。継続支援を進めるべき。
○	適切なアドバイス事業等により支援が必要。
◎	商工会等の連携が不可欠。
△	数値目標自体は達成、となっているが、体系傘下の戦略事業7つ(37~44)について、Aが3つ、Dが4つ、と極端であり、施策体系としての意義・位置づけに疑問が残る。
○	数値はあがっているが、実態が伴わないのは町並みに賑わいが見えないからか。引き続き増加を図る。
○	実感として、活発という形がみえない。
◎	補助が手厚いし、女性の起業家が活気があってよいと思う。
○	
総合評価	評価内容
○	数値としては評価できるが実感は伴わない。施策体系としての位置づけにも疑問が残る。

**オ 今後の取り組みと改善点**

・H27の実績値が40件、H28の単年度実績は44件である。飲食業、美容業等個人の資格を活かした起業の傾向。起業地が点在しているために、賑わい感が実感できないと考えている。引き続き、商工会、金融機関等関係機関と連携して起業を支援していく。
---

主管課	商工課	関係課	農林課
-----	-----	-----	-----

**ア 体系区分**

基本目標	基本目標Ⅱ 多様な仕事を育む地域課題解決のまち創造
この基本目標に対応する具体的施策(施策区分)	① 起業・コミュニティービジネス支援と就業支援 ② 企業誘致の推進と新たなビジネスを支える地域創生ファンドの組成 ③ 南砺版エコノミックガーデニングの構築 ④ クリエイターの集積による新たな魅力の創造 ⑤ 五箇山&南砺ブランド商品の開発と販売促進 ⑥ 職人育成と伝統工芸の維持

※ KPI (重要業績評価指標) は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する「取り組み事業」の全てがKPIに関係するとは限りません。

**イ 指標と達成率**

数値目標 2-3	南砺市ブランド商品年間販売額	関連する施策区分	⑤⑥						
指標の説明、確認方法	農産品：市内産物直売所・農産加工品販売額(砺波農林振興センター「普及指導計画書より)及びその他の主な農産加工品販売額(市農林課調査)を合計したもの、商工：自治体特選ストア販売額及び伝統的工芸品販売額(市商工課より井波彫刻及び五箇山和紙の組合へ聴取)の合計額								
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値				5年間の目標値	単位	H28年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度					
18.2	18.6	18.9	19.3	19.6	20	億円	18	90%	95%
	(前年に対する変化目標)								
	0.4	0.3	0.4	0.3	0.4				

達成率の計算方法(一部、例外有り)

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率=(「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」)×100

**ウ 内部評価**

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に	A:かなりの効果があった(8割以上) B:まずまずの効果があった(7割程度) C:少しは効果があった(改善・進展) D:まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E:効果が見込めない(悪化・停滞)
D		
総合戦略策定時から下がっておりD判定。農産品の直売所販売額は増えているものの、商工分野の販売額が伸びていない。		
販路開拓を目的とした戦略事業No.45「南砺ブランド商品開発支援事業」は、H28年度までは課題等の抽出を行ってきた。H29年度から関係者と連携して制度設計を行ない、販売額増大に取り組んでいくこととしている。		

**エ 外部評価**

各委員の評価	◎:効果があった ○:少しは効果があった △:現段階ではまだ判断できない ●:効果が見込めない
	各委員の意見
△	KPIの評価と連動していないし、45~50の強化推進事業をもう一度トータルに見直すべきではないか。(例えばオーガニック事業への全体移行等も含め)
△	
○	農商工連携による事業の再構築と制度設計の見直しにより事業効果を高めるべき。
△	市が総合戦略を策定し進めることが必要。
△	販路拡大に工夫必要。
△	傘下施策45~50のほとんどが準備段階、とのことなので現状評価不能。次年度以降に期待します。
△	今後に期待。
●	
△	「ブランド」として立派に売り出しているものや、商業がさかんな感じはまだあまりない。
△	自然が豊かで農産物の加工に取り組んでいるところは日本中に沢山ある。無農薬、有機栽培、減農薬など、安全で美味しい農産物の市として、栽培から南砺市規格を確立しながら加工品などもPR出来たら良い。
総合評価	評価内容
△	事業のほとんどが準備段階、KPIとの連動もない。トータルに見直しを。

**オ 今後の取り組みと改善点**

・市の「なんどの農産加工ブランド品認定制度」と商工会の「推奨土産品認定制度」を発展的に解消して新しい認定制度に統一し、商品の磨き上げから販路開拓までをサポートして、全国や海外に南砺の商品を売り込んでいくことを事業目的として取り組んでいく。
---

平成 28 年度事業の南砺市総合戦略推進委員会による事業実施成果検証・評価・意見

主管課	商工課	関係課	教育総務課、こども課、南砺で暮らしません課
-----	-----	-----	-----------------------

ア 体系区分

施策区分	施策Ⅱ-① 起業・コミュニティービジネス支援と就業支援			
この施策の中で 取り組む事業	27	奨学金を活用した大学生等の地方定着促進事業	33	空き店舗対策支援事業
	28	起業家育成支援事業	34	小規模事業者後継者支援事業（商店後継者支援事業）
	29	女性起業家育成道場	35	地域おこし協力隊の地域への人材還流の推進
	30	母子家庭等就業・自立支援事業	36	就活・雇用促進事業
	31	なんとチャレンジショップ（横丁）事業		
	32	空き家テレワークオフィス開設支援事業		

※ KPI（重要業績評価指標）は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する「取り組む事業」の全てがKPIに関係するとは限りません。

KPI 7		若者、女性の就業率（再掲）								
指標の説明、 確認方法		23歳以上の若者（35歳以下）と女性の就業者数を、企業情報や所得等から算出し、当該対象の総数で除した割合								
現状値 (H26 年度)	年度時点の目標数値					5年間の 目標値	単位	H28 年度 実績値	5年間の目標値 に対する 達成率(%)	年度時点の目標 数値に対する達 成率(%)
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度					
46.6	47.3	48	48.6	49.3	50	50	%	47.1	94%	98%
	(前年に対する変化目標)									
	0.7	0.7	0.6	0.7	0.7					

達成率の計算方法（一部、例外有り）

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率＝（対象年度の実績値）／「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」× 100

ウ 内部評価

年度時点の達成率 に対する事業効果	総合戦略に	A：かなりの効果があった（8割以上） B：まずまずの効果があった（7割程度） C：少しは効果があった（改善・進展） D：まだ効果が出ていない（現段階ではまだ判断できない・未実施含む） E：効果が見込めない（悪化・停滞）
D		
総合戦略策定時から、補助申請がない事業（戦略事業No. 31, 32）があることからD判定。事業PRを強化するとともに、事業内容を見直す必要がある。		

エ 外部評価

各委員 の評価	◎：効果があった ○：少しは効果があった △：現段階ではまだ判断できない ●：効果が見込めない	各委員の意見
△		
●		いまだ着手できない、制度設計できない事業は根本的見直し。
○		戦略事業29、29では十分効果有。31、32は今後の推移を見守る（情報発信に工夫が必要）
△		市の積極的関与が必要。
△		特に女性の活躍事例をPRすることが必要。
△		奨学金支援、母子家庭支援、起業支援などは漢方薬のような浸透効果が将来的に数値目標に反映することを期待。その他施策も、更なる効果向上のため、施策間連携を。羽咋市の道の駅を核にした一連の施策展開事例が参考になるのでは？
△		わかり難いのではないかな。
●		
△		すぐに結果のでる事業ではないけど、とても充実している。ただ認知されているかはわからない。
△		働き方は多様化している。就業率に表れない働き方への支援も。+PR
総合評価	評価内容	
△	着手できていない事業など抜本的に見直しを。情報発信にも課題がある。	

オ 今後の取り組みと改善点

・これまで(再掲)であったことから、実数に変更し、KPIを上げることで数値目標が上がる、という整理にする。また、数値目標の対象の変更にあわせ、女性の区分を全対象から65歳未満に変更する。

主管課	企業誘致推進室	関係課	エコビレッジ推進課
-----	---------	-----	-----------

**ア 体系区分**

施策区分	施策Ⅱ-② 企業誘致の推進と新たなビジネスを支える地域創生ファンドの組成
この施策の中で 取り組む事業	37 南砺自然エネルギーファンド
	38 既存工業団地の無償譲渡で企業誘致

※ KPI（重要業績評価指標）は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する“取り組む事業”の全てがKPIに関係するとは限りません。

<b>KPI 8</b>	<b>新規立地企業の新規雇用者数</b>									
指標の説明、 確認方法	平成27年度以降に市内で設立及び設置、進出した事業所に係る個人市民税の特別徴収に掲載された人数の合計（H26からの累計）									
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値					5年間の 目標値	単位	H28 年度 実績値	5年間の目標値 に対する 達成率(%)	年度時点の目標 数値に対する達成 率(%)
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度					
0	10	20	30	40	50	50	人	43	86%	215%
(前年に対する変化目標)										
	10	10	10	10	10					

達成率の計算方法（一部、例外有り）

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率＝（対象年度の実績値）／「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」× 100

**ウ 内部評価**

年度時点の達成率 に対する事業効果	総合戦略に	A：かなりの効果があった（8割以上） B：まずまずの効果があった（7割程度） C：少しは効果があった（改善・進展） D：まだ効果が出ていない（現段階ではまだ判断できない・未実施含む） E：効果が見込めない（悪化・停滞）
A		
年度目標を達成しておりA判定。クリエイター産業の振興を目指した拠点施設の整備に伴い、アニメ関連企業の新設による特別徴収従業員数（源泉徴収された従業員数）が増加した。		

**エ 外部評価**

各委員 の評価	◎：効果があった ○：少しは効果があった △：現段階ではまだ判断できない ●：効果が見込めない
各委員の意見	
○	事業37, 38とこのKPIのつながりは不明。38については域内起業に充実を絞るべきでないか。
●	クリエイターやアニメ産業は本当に直接雇用か個人事業主か不明。中身を教えてもらいたい。
△	戦略事業37は制度設計中で効果未定。既存工業用地の無償譲渡は事業効果を再検討すべき。クリエイター産業振興により雇用者増は効果有。
△	新規雇用者は増加したが事業との関連が不明。
◎	南砺市における立地メリットの積極的なPRが必要。
●	傘下施策37, 38の両方が成果ゼロなのに、クリエイタープラザ特需で表面数値だけでA評価というのは少し説明不足。体系区分等について根本的な見直しが必要では？
○	他の地域への波及を期待したい。
◎	
△	アニメか……と、個人的には残念。
○	
総合評価	評価内容
△	事業とKPIのつながりが不明。体系区分の見直しが必要では。

**オ 今後の取り組みと改善点**

事業との繋がりが希薄であることから、企業立地奨励事業助成制度の対象となる新規雇用者数へと統合し、企業新設や増設に伴う雇用増における市内企業の雇用状況を把握する。助成制度においては企業訪問、企業ホームページ等で啓発PRを行うことで周知を図りたい。

主管課	企業誘致推進室	関係課	商工課
-----	---------	-----	-----

**ア 体系区分**

施策区分	施策Ⅱ-③ 南砺版エコノミックガーデニングの構築
この施策の中で取り組む事業	39 企業立地奨励事業小規模事業者応援制度 40 プレミアム付き商品券発行事業 41 なんとポイントカード発行事業

※ KPI（重要業績評価指標）は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する“取り組み事業”の全てがKPIに関係するとは限りません。

<b>KPI 9</b>		<b>新規雇用者数</b>								
指標の説明、確認方法		企業立地助成金事業のうち「雇用創出事業」の対象である市内に住所を有する新規雇用従業員数の合計（H26からの累計）								
現状値 （H26年度）	年度時点の目標数値					5年間の目標値	単位	H28年度実績値	5年間の目標値に対する達成率（%）	年度時点の目標数値に対する達成率（%）
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度					
3	22	42	61	81	100	100	人	26	26%	62%
	（前年に対する変化目標）									
	19	20	19	20	19					

達成率の計算方法（一部、例外有り）

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率＝（対象年度の実績値）／「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」×100

**ウ 内部評価**

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に	A：かなりの効果があった（8割以上） B：まずまずの効果があった（7割程度） C：少しは効果があった（改善・進展） D：まだ効果が出ていない（現段階ではまだ判断できない・未実施含む） E：効果が見込めない（悪化・停滞）
C		
年度目標は達成していないものの、H27実績14人から倍近く増えておりC判定。戦略事業No.39「企業立地奨励事業・小規模事業者応援制度」の助成要件を改正したことで前年度より申請数、助成額が増加した。（一人30万円×12人＝3,600千円の助成額）		

**エ 外部評価**

各委員の評価	◎：効果があった ○：少しは効果があった △：現段階ではまだ判断できない ●：効果が見込めない
	各委員の意見
△	事業41については、ファンド形成検討事業(37)とリンクして検討していくべき。
○	中身が不明。
○	各事業により一定の効果があったものと解される。期間の限られた事業による評価であり継続的な効果の事業を検討。
○	
○	助成制度を手厚くしPR必要。
○	単体として効果が表れつつある企業立地奨励事業やクリエイター関連事業をベースに、KPIである「新規雇用者数」につなげられるよう、さらなる工夫を期待。
○	今後に期待したい。
△	
△	ポイントカードや商品券は使いづらそう。応援制度はとても良いと思う。
△	
総合評価	評価内容
○	今後のさらなる展開に期待。

**オ 今後の取り組みと改善点**

既存（梅原南）工業団地の企業誘致による新規雇用者数では一部地域のみとなり、市内全域での就業状況の把握のため、企業立地奨励事業助成制度における新規雇用者数とする。 工業団地企業立地となれば新規雇用者数は把握できるので、施策Ⅱ-②は廃止、Ⅱ-③に合せる。
--



主管課	商工課	関係課	地方創生推進課
-----	-----	-----	---------

**ア 体系区分**

施策区分	施策Ⅱ-④ クリエイターの集積による新たな魅力の創造
この施策の中で 取り組む事業	42 クリエイタープラザ運営事業
	43 テレワーク導入推進事業
	44 情報活用スペシャリスト投入事業「IT版地域おこし協力隊(フェローシップ)」

※ K P I (重要業績評価指標) は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する“取り組み事業”の全てがK P Iに関係するとは限りません。

K P I 10		クリエイター移住者数								
指標の説明、 確認方法		市内のクリエイティブ産業関係事業所に聴取した市内に転入された従業員数の合計								
現状値 (H26 年度)	年度時点の目標数値					5年間の 目標値	単位	H28 年度 実績値	5年間の目標値 に対する 達成率(%)	年度時点の目標 数値に対する達 成率(%)
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度					
0	20	40	60	80	100	100	人	42	42%	105%
	(前年に対する変化目標)									
	20	20	20	20	20					

達成率の計算方法(一部、例外有り)

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率=(「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」)×100

**ウ 内部評価**

年度時点の達成率 に対する事業効果	総合戦略に	A:かなりの効果があった(8割以上) B:まずまずの効果があった(7割程度) C:少しは効果があった(改善・進展) D:まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E:効果が見込めない(悪化・停滞)
A		
年度目標を上回っておりA判定。企業立地活動の成果により、正社員の大幅雇用があった。		

**エ 外部評価**

各委員 の評価	◎:効果があった ○:少しは効果があった △:現段階ではまだ判断できない ●:効果が見込めない	各委員の意見
○		事業43は事業32と統合すべき
◎		戦略事業42等十分効果があった。
○		一過性でない継続的取り組みに期待。
◎		継続的な取り組みに期待。
◎		効果の上がっているクリエイタープラザ関連事業については、昨年度対比の急進要因を適切に把握し、次年度以降も好調のペースを維持して欲しい。
○		今後期待したい。
◎		
○		人が(特に若い)働いてくれるのは良いが、もっとオープンな場所で地域に活気をもたらしてほしかった。
○		継続されていけるなら良い。
総合評価	評価内容	
○	継続的な取り組みに期待。好調のペースを維持してほしい。	

**オ 今後の取り組みと改善点**

・H28の事業検証を行い、クリエイター移住者数の目標等の達成に向けた今後の行動計画を明確にしたクリエイタープラザ中期運営計画を本年度中に策定して取り組む。
---

平成 28 年度事業の南砺市総合戦略推進委員会による事業実施成果検証・評価・意見

主管課	商工課	関係課	地方創生推進課、農林課、企業誘致推進室
-----	-----	-----	---------------------

ア 体系区分

施策区分	施策Ⅱ-⑤ 五箇山&南砺ブランド商品の開発と販売促進
この施策の中で取り組む事業	45 南砺ブランド商品開発支援 46 干柿新規就労支援事業 47 酒米の里プロジェクト

※ KPI (重要業績評価指標) は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する「取り組み事業」の全てがKPIに関係するとは限りません。

KPI 11		南砺ブランド商品登録品目数								
指標の説明、確認方法		なんどのほんまもん、自治体特選ストア、なんのお土産、なんのうまいもんに掲載、登録されている総品目数								
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値					5年間の目標値	単位	H28年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度					
	266	275	283	292	300					
258	(前年に対する変化目標)					300	品目	327	109%	119%
	8	9	8	9	8					

達成率の計算方法(一部、例外有り)

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率=(「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」)×100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に	A:かなりの効果があった(8割以上) B:まずまずの効果があった(7割程度) C:少しは効果があった(改善・進展) D:まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E:効果が見込めない(悪化・停滞)
A		
年度目標を上回っておりA判定。事業者への勧誘を強化したことにより、伸びている。H29年度に複数ある認定ブランド制度について、発展的解消から新たに統一したブランドを定めることとしている。		

エ 外部評価

各委員の評価	◎:効果があった ○:少しは効果があった △:現段階ではまだ判断できない ●:効果が見込めない
	各委員の意見
△	45~50事業の再整理と見直しが必要
○	
◎	目標を上回り効果はあったと考えられる。ブランド品のPR、内容の充実を進めるべき。
○	取り組みの効果が表れていると思料。ただしKPI16に繋がっていない。商工課・農林課が連携して活動することが重要。
◎	今後さらに期待。
●	内部評価説明欄の「今後の発展的解消からの新ブランドを」というストーリーは理解できるが、上位の数値目標2-3が準備中の中、商品登録数のみでA評価には?量より質なの?
△	販売実績につながるよう進める。
○	販売減であれば効果としてどうなのか。市で推奨する形を考えていければ(SNS活用)
○	より良いものを作る意識は全国的に高まっている。ブランディングの学べる機会や事業をしていただきたい。
◎	開発や販売促進に関わっておられる方のご苦労や努力が感じられる。
総合評価	評価内容
○	取り組みの効果があったと評価。ただし販売実績に繋がっていないことには疑問も。KPI16とも繋がっていない。事業の整理や連携が必要。

オ 今後の取り組みと改善点

・市の「なんどの農産加工ブランド品認定制度」と商工会の「推奨土産品認定制度」を発展的に解消して新しい認定制度に統一することに伴い、目標値の変更を行なう。
--

主管課	商工課	関係課	地方創生推進課、エコビレッジ推進課
-----	-----	-----	-------------------

**ア 体系区分**

施策区分	施策Ⅱ-⑥ 職人育成と伝統工芸の維持
この施策の中で取り組む事業	48 伝統的工芸品後継者育成支援事業
	49 マイスター認定事業
	50 桜ヶ池合掌造り家屋「かず良」で養蚕・絹糸再生事業

※ KPI（重要業績評価指標）は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する“取り組み事業”の全てがKPIに関係するとは限りません。

<b>KPI 12</b>		<b>伝統的工芸職人数</b>								
指標の説明、確認方法		井波彫刻協同組合及び五箇山和紙の組合に聴取した組合員及び和紙従業者数								
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値					5年間の目標値	単位	H28年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度					
137	137	137	137	137	137	137	人	137	100	100
0	0	0	0	0						

達成率の計算方法（一部、例外有り）

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率＝（対象年度の実績値）／「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」× 100

**ウ 内部評価**

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に	A：かなりの効果があった（8割以上） B：まずまずの効果があった（7割程度） C：少しは効果があった（改善・進展） D：まだ効果が出ていない（現段階ではまだ判断できない・未実施含む） E：効果が見込めない（悪化・停滞）
A		
KPIが維持されているのでA判定。伝統的工芸品の後継者育成の支援制度の充実で現状維持。今後は、制度拡充の検討や卓越した技術の情報発信を行なうことで、伝統産業を成長させていくこととしている。		

**エ 外部評価**

各委員の評価	◎：効果があった ○：少しは効果があった △：現段階ではまだ判断できない ●：効果が見込めない
	各委員の意見
△	
●	本当に増えているのか不明。減と増の中身を精査すべき。
○	KPIは維持されている。市外に向けた情報発信をより進めるべき。
△	現状維持が目標ということで良いのでしょうか？
◎	今後さらに期待。
△	KPI職人数について詳細不明な為評価も不能。誰も辞めていない、亡くなっていない、ということでの現状維持と、廃業・死亡の一方で新規登録があるか、で評価は全く異なる。
○	産業として発展していくことが就業者の意欲に結びつく。なお一層の情報発信を。
◎	
◎	南砺らしい魅力はここにあるので、これからも期待したい。
◎	歴史は簡単に作れない。南砺市の財産を伝統産業として支援がもっと必要。子ども達が憧れる職業になるような程度の生活面での保障も持てるような取り組みが進めば良い。
総合評価	評価内容
○	維持されていることは評価。しかし、詳細が不明であり精査必要。

**オ 今後の取り組みと改善点**

・伝統的工芸品産業は、職人の高齢化や後継者不足、市場の縮小等厳しい状況にあり、まずは職人数を維持していくことに関係機関とともに全力で取り組んでいく。
--

主管課	南砺で暮らしません課	関係課	
-----	------------	-----	--

**ア 体系区分**

基本目標	基本目標Ⅲ 南砺版エコビレッジによる新しいライフスタイルのまち創造
この基本目標に対応する具体的施策(施策区分)	① コミュニティビジネスの支援と笑顔あふれる豊かな地域の創造 ② 木質バイオマスエネルギー等の活用 ③ 地産地消推進による食の自給率向上 ④ 南砺の農林水産業の維持と新たな挑戦 ⑤ 森里川海のつながりでいのち湧く地域の形成 ⑥ 公共施設再編計画の実現

※ KPI (重要業績評価指標) は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する「取り組み事業」の全てがKPIに関係するとは限りません。

**イ 指標と達成率**

数値目標 3-1-1	コミュニティの維持	関連する施策区分	①						
指標の説明、確認方法	南砺市内にある自治会の数								
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値				5年間の目標値	単位	H28年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度					
354	354	354	354	354	354	354	354	100	100
	(前年に対する変化目標)								
	0	0	0	0	0				

達成率の計算方法(一部、例外有り)

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率=(「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」)×100

**ウ 内部評価**

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に	A: かなりの効果があった(8割以上) B: まずまずの効果があった(7割程度) C: 少しは効果があった(改善・進展) D: まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E: 効果が見込めない(悪化・停滞)
A		
少子高齢化が進む中、現状の自治会数が確保されていることからA判定。 地域課題を解決しようとする自治会が増えてきており、自分たちに自治会を守り育てようという動きが出てきている。		

**エ 外部評価**

各委員の評価	◎: 効果があった ○: 少しは効果があった △: 現段階ではまだ判断できない ●: 効果が見込めない
	各委員の意見
○	KPIの呼称変更と戦略事業51~54の見直しが必要(KPIで評価)
●	まだかろうじて維持されているに過ぎない。これからの問題。市が援助したわけでないのに「A」は?
○	現状で推移を見守りたい。
○	自治体の数が維持されているのは評価。今後活動の活性化を期待。
◎	維持することの重要性を認識していくことが必要。
△	「自治会数の維持」と「コミュニティの維持」は少し遠い印象。「地域コミュニティが適切に維持されていると感じる者」など、補助的な指標を加えた方がより適切になるのでは?
△	数は維持されているが、形骸化されていないか。先の会議で意見があった統合も考慮していく必要はないか。
◎	
○	それぞれの地域の結びつきが強くて活発・若い世代はとなりの地域との交流をはかる動きもできたので、年配の方も、そのような動きがあれば。
△	自治会を若い世代にどう繋いでいくかが問題。コミュニティ=自治会だけではないはず。
総合評価	評価内容
○	維持されていることは評価するが、内容には課題もあるのでは。KPIや事業の見直しを。

**オ 今後の取り組みと改善点**

「自治会数の維持」=「コミュニティの維持」とはいきれない。コミュニティ維持として自治会行事に参加している市民の割合に指標を変更する。
--

主管課	南砺で暮らしません課	関係課	文化・世界遺産課
-----	------------	-----	----------

**ア 体系区分**

基本目標	基本目標Ⅲ 南砺版エコビレッジによる新しいライフスタイルのまち創造
この基本目標に対応する具体的施策(施策区分)	① コミュニティビジネスの支援と笑顔あふれる豊かな地域の創造 ② 木質バイオマスエネルギー等の活用 ③ 地産地消推進による食の自給率向上 ④ 南砺の農林水産業の維持と新たな挑戦 ⑤ 森里川海のつながりでいのち湧く地域の形成 ⑥ 公共施設再編計画の実現

※ KPI (重要業績評価指標) は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する“取り組み事業”の全てがKPIに関係するとは限りません。

**イ 指標と達成率**

数値目標 3-1-2	コミュニティの維持	関連する施策区分	①							
指標の説明、確認方法	南砺市内で継承されている獅子舞の数									
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値				5年間の目標値	単位	H28年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)	
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度						H31年度
104	104	104	104	104	104	104	団体	102	98%	98%
	(前年に対する変化目標)									
	0	0	0	0	0					

達成率の計算方法(一部、例外有り)

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率=(「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」)×100

**ウ 内部評価**

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に	A:かなりの効果があった(8割以上) B:まずまずの効果があった(7割程度) C:少しは効果があった(改善・進展) D:まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E:効果が見込めない(悪化・停滞)
B		
団体数は減っているが、出身者や都市の若者との交流による協力など、存続のための努力を各地域で行っており、現状維持の状態である。		

**エ 外部評価**

各委員の評価	◎:効果があった ○:少しは効果があった △:現段階ではまだ判断できない ●:効果が見込めない
各委員の意見	
○	決して絶やしてはいけない活動。他地域との連携の中で市全体として保存活動に力を入れるべき。
?	減らしてしまった事実
○	現状維持
○	若者が減少する中、現状が維持されているのは評価。
○	他地域からの参加も考慮すべき。
△	地域の伝統や祭りの維持は大切だと思いますが、この位置に掲げられているのか?また、体系傘下施策群との繋がりなどは、どうにも理解・評価が難しい項目と感じます。
△	休止状態のところも見受けられる。
○	
○	苦勞されて維持しておられるので。
○	存続の努力や想いが感じられる。が、伝統行事よりスポ少や習い事に重点を置く傾向も見られる。獅子舞に限らず、継承していく為には、子供を積極的に参加させる大人側の意識が大切。
総合評価	評価内容
○	維持されていることは評価するが、減ったことは事実であり、休止状態のところも見受けられる。他地域との連携なども検討を。

**オ 今後の取り組みと改善点**

獅子舞の存続については数値を上げる事業がなく、対応できないため、数値目標から外す。
---

主管課	エコビレッジ推進課	関係課	
-----	-----------	-----	--

**ア 体系区分**

基本目標	基本目標Ⅲ 南砺版エコビレッジによる新しいライフスタイルのまち創造
この基本目標に対応する具体的施策(施策区分)	① コミュニティビジネスの支援と笑顔あふれる豊かな地域の創造 ② 木質バイオマスエネルギー等の活用 ③ 地産地消推進による食の自給率向上 ④ 南砺の農林水産業の維持と新たな挑戦 ⑤ 森里川海のつながりでいのち湧く地域の形成 ⑥ 公共施設再編計画の実現

※ KPI (重要業績評価指標) は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する“取り組む事業”の全てがKPIに関係するとは限りません。

**イ 指標と達成率**

数値目標 3-2-1	再生可能エネルギー導入容量	関連する施策区分	②③④⑤							
指標の説明、確認方法	熱：ペレットストーブ設置補助金により設置された台数に対し、ストーブ1台当たり1t (17GJ) の熱消費量を乗じて算出した熱量の合計									
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値				5年間の目標値	単位	H28年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)	
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度						H31年度
595	816	1037	1258	1479						1700
	(前年に対する変化目標)					1700	GJ	1071	63%	103%
	221	221	221	221	221					

達成率の計算方法(一部、例外有り)

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率=(「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」)×100

**ウ 内部評価**

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に	A:かなりの効果があった(8割以上) B:まずまずの効果があった(7割程度) C:少しは効果があった(改善・進展) D:まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E:効果が見込めない(悪化・停滞)
A		
H28申請件数が16件と毎年20件弱の申請があり、順調に市民への広がりが出てきているのでA判定。 今後のペレット燃料製造工場の稼働に伴う安定供給や、公共施設への導入が整えば、基本目標としている市内循環システムが構築されることとなる。		

**エ 外部評価**

各委員の評価	◎:効果があった ○:少しは効果があった △:現段階ではまだ判断できない ●:効果が見込めない
	各委員の意見
△	今後の利用増の告知、啓蒙、見える化が必須。また、農業への新規就農も含め、64は46,47との連携見直しが必要。また、65,67の今後の推進体制の整備が不可欠。 A?
○	順調に市民への広がり効果が表れている。
○	地域資源の有効利用につながるよう期待する。
◎	他のモデルになる事業である。
◎	順調に推移している様子。今後は、ペレットストーブ普及に伴う材料調達等資源面での循環や、ペレット製造に係る経済面での市内循環など、守備範囲の拡大に期待。
○	安定供給が鍵となる。
◎	
△	ペレットストーブは、結局「なーん使えん」との声をよく聞く。
◎	南砺の山の環境保全として定着し、山が豊かになり木彫刻などの産業や農業などともつながって、家庭・地域・南砺市、そして環境規模と様々な循環に広がってほしい。
総合評価	評価内容
○	数値が順調であることは評価。しかし事業間の連携や推進体制の整備など課題も。

**オ 今後の取り組みと改善点**

順調に事業は進んでいる。今後はペレットの使用拡大に向け、需要市内事業者と広報活動や取扱い業者連携をさらに進める。また、数値目標の名称を「地域資源の利活用」へ変更する。
---

主管課	エコビレッジ推進課	関係課	
-----	-----------	-----	--

**ア 体系区分**

基本目標	基本目標Ⅲ 南砺版エコビレッジによる新しいライフスタイルのまち創造
この基本目標に対応する具体的施策(施策区分)	① コミュニティビジネスの支援と笑顔あふれる豊かな地域の創造 ② 木質バイオマスエネルギー等の活用 ③ 地産地消推進による食の自給率向上 ④ 南砺の農林水産業の維持と新たな挑戦 ⑤ 森里川海のつながりでいのち湧く地域の形成 ⑥ 公共施設再編計画の実現

※ KPI (重要業績評価指標) は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する「取り組む事業」の全てがKPIに関係するとは限りません。

**イ 指標と達成率**

数値目標 3-2-2	再生可能エネルギー導入容量	関連する施策区分	②③④⑤							
指標の説明、確認方法	電気：住宅用太陽光補助金により設置した器機の発電出力能力の合計									
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値		5年間の目標値	単位	H28年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)			
2467	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	4500	KW	2933	65%	89%
407	2874	3280	3687	4093	4500					
	(前年に対する変化目標)									
	407	406	407	406	407					

達成率の計算方法(一部、例外有り)

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率=(「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」)×100

**ウ 内部評価**

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に	A：かなりの効果があった(8割以上) B：まずまずの効果があった(7割程度) C：少しは効果があった(改善・進展) D：まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E：効果が見込めない(悪化・停滞)
A		
導入に関する県補助の廃止、FIT買い取り価格の下落などから、市民の導入意欲が下がってきている中、達成率89%ということからA判定。 市補助を継続し、積極的な啓発をおこない導入申請数を確保している。 現状から数値目標の見直しが必要であり下記のとおり修正したい。 H28=2933, H29=3133, H30=3333, H31=3533		

**エ 外部評価**

各委員の評価	◎：効果があった ○：少しは効果があった △：現段階ではまだ判断できない ●：効果が見込めない
	各委員の意見
△	今後の利用増の告知、啓蒙、見えるかが必須。また、農業への新規就農も含め、64は46,47との連携見直しが大切。また、65,67の今後の推進体制の整備が不可欠。
	A?
○	制度の改正、変更等から市民の導入意欲が減少している。今一度積極的な啓発を推進。
○	市補助の有効性を見極めて目標を展開してほしい。
◎	他のモデルになる事業である。
○	FIT制度自体の諸問題もあり、太陽光発電を含む再生可能エネルギー全般に逆風もある。が、エネルギーの地産地消という面では、風力・水力・地熱など含めて、意義はあるのでは?
○	社会情勢の中、今後の進展は小幅と予想されるが、新たな取り組みも必要。
◎	
○	自家発電は長期的にみて、お得だし環境への意識が持続できてよい。
△	日照時間が多いとは言えない土地柄。井波風を活かした風力や城端で見られる水車。特産の里イモ洗いの水車、昔利用されていたらせん水車等の水力も現代版で取り組んでみてはどうか?
総合評価	評価内容
○	社会情勢の中、今後の展開には逆風も。しかし意義ある取り組みであり、積極的な推進を。

**オ 今後の取り組みと改善点**

太陽光は施策に結びつくものがないため目標に掲げる意味が無い。農産物の地域内循環を表す指標として、新たに「地場産品を意識して購入している市民の割合」とする。

主管課	行革・施設管理課	関係課	
-----	----------	-----	--

**ア 体系区分**

基本目標	基本目標Ⅲ 南砺版エコビレッジによる新しいライフスタイルのまち創造
この基本目標に対応する具体的施策(施策区分)	① コミュニティビジネスの支援と笑顔あふれる豊かな地域の創造 ② 木質バイオマスエネルギー等の活用 ③ 地産地消推進による食の自給率向上 ④ 南砺の農林水産業の維持と新たな挑戦 ⑤ 森里川海のつながりでいのち湧く地域の形成 ⑥ 公共施設再編計画の実現

※ KPI (重要業績評価指標) は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する“取り組み事業”の全てがKPIに関係するとは限りません。

**イ 指標と達成率**

数値目標 3-3	縮減公共施設の有効活用面積	関連する施策区分	⑥							
指標の説明、確認方法	公共施設等総合管理計画に基づき譲渡した公共施設のうち、民間活用された施設面積の合計									
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値				5年間の目標値	単位	H28年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)	
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度						H31年度
0	0	3000	15000	27000						39000
	(前年に対する変化目標)					39000	m <sup>2</sup>	0	0%	0
	-	3000	12000	12000	12000					

達成率の計算方法(一部、例外有り)

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率=(「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」)×100

**ウ 内部評価**

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に	A:かなりの効果があった(8割以上) B:まずまずの効果があった(7割程度) C:少しは効果があった(改善・進展) D:まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E:効果が見込めない(悪化・停滞)
D		
現在、施設の有効活用に向けて交渉中であるが、契約までには至っていないことからD判定。 交渉中の案件にあっては、譲渡の方向性を決定し、活用提案を受け付けるなどすることで、公共施設の民間活用を積極的に進めていく。		

**エ 外部評価**

各委員の評価	◎:効果があった ○:少しは効果があった △:現段階ではまだ判断できない ●:効果が見込めない
	各委員の意見
△	早く方針の明確化と具体的な再利用例の見える化が必須。
●	
△	地元コンセンサスを十分に行った上で慎重に進めるべき
△	目標に向けての市の行動に期待。
△	今後に期待。
△	価値のある立地では、既存利用者等利害関係者との調整が、価値の無い立地では、そもそも活用の切り口が乏しい、など、諸課題はあると思うが、引き続き具体成果への活動を期待。
△	判定できない。
●	
△	センスが重要。リフォームやDIYの補助があって、当事者にとって魅力的であれば有効。
△	
総合評価	評価内容
△	判断できない。成果に繋がるよう、方針の明確化や具体的な再利用例の見える化などに取り組むべき。

**オ 今後の取り組みと改善点**

現在、現管理者と譲渡交渉を行っており、ほとんどの施設について、年内に譲渡を受けれるかどうかの回答をいただく予定としている。譲渡不可の回答があった施設については、広く民間から活用提案を求めて、雇用の確保や地域活性化に向けて施設の活用を目指していく。年度当初から、桜ヶ池自遊の森施設について、利活用提案募集を行ったところであり、1社からの活用提案があった。現在、10数件の活用提案募集をおこなっているところであり、バスツアーの実施など引き続き施設再編の確実な実行に向けて取り組んでいきたい。



主管課	南砺で暮らしません課	関係課	地域包括ケア課、交流観光まちづくり課
-----	------------	-----	--------------------

**ア 体系区分**

施策区分	施策Ⅲ-① コミュニティビジネスの支援と笑顔あふれる豊かな地域の創造
この施策の中で 取り組む事業	51 総合型自治振興会強化プラン
	52 南砺市版 空き家再生等推進事業
	53 地元の空き家を活用した短期滞在型施設経営支援「田舎に泊まろう」
	54 南砺キッチンカー活用事業

※ KPI（重要業績評価指標）は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する“取り組み事業”の全てがKPIに関係するとは限りません。

KPI 13		新規起業数								
指標の説明、 確認方法		地域課題解決に住民協働で取り組む「介護予防・日常生活支援総合事業」や「総合型自治振興会」、「空き家再生等推進事業」といった地域活動やコミュニティビジネスを実践する自治振興会、自治会、団体の合計数								
現状値 (H26 年度)	年度時点の目標数値					5年間の 目標値	単位	H28 年度 実績値	5年間の目標値 に対する 達成率(%)	年度時点の目標 数値に対する達 成率(%)
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度					
0	0	10	20	30	40	40	団体	8	20%	80%
	(前年に対する変化目標)									
	-	10	10	10	10					

達成率の計算方法（一部、例外有り）

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率＝（対象年度の実績値）／「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」× 100

**ウ 内部評価**

年度時点の達成率 に対する事業効果	総合戦略に	A：かなりの効果があった（8割以上） B：まずまずの効果があった（7割程度） C：少しは効果があった（改善・進展） D：まだ効果が出ていない（現段階ではまだ判断できない・未実施含む） E：効果が見込めない（悪化・停滞）
A		
<p>「介護予防・日常生活支援総合事業」においてサービスB 2箇所、週1サロン 3箇所や地域産材を活用した飲食業の展開など、コミュニティビジネスの動きが出てきていることからA判定。 モデル事業の展開により各地域において自ら課題解決の為に起業についての動きが見受けられる。</p>		

**エ 外部評価**

各委員 の評価	◎：効果があった ○：少しは効果があった △：現段階ではまだ判断できない ●：効果が見込めない
各委員の意見	
○	KPIの名称を変えるべき。事業52, 53は32, 33とより連携を図るべき。54は稼働率をあげるべく、買い物難民支援等に日常的に活用できないか検討すべき。 ? A
○	コミュニティビジネスの動きがみられることから、長期的視野に立った事業展開が必要。
○	今後も地域コミュニティビジネスに取り組んでほしい。
◎	良い方向に向かっている。
△	コミュニティビジネスの起業事例が出てきた、という点は◎。だが、「当該事業がKPI達成に有効か？」という評価基準からは△をつけざるを得ない。体系区分の整理を。
△	今後に期待。
○	
○	介護や生活支援に対して活力のある女性がお互いを支え合う仕組みをつくって取り組んでおられるので心強い。
○	
総合評価	評価内容
○	コミュニティビジネスの実例が出てきた点は評価。ただし、事業間連携や、体系区分について見直しを。

**オ 今後の取り組みと改善点**

KPIの名称について、個人起業とまぎらわしいので「コミュニティビジネス等に取り組む自治会等の数」と名称を変更。
---

平成 28 年度事業の南砺市総合戦略推進委員会による事業実施成果検証・評価・意見

主管課	エコビレッジ推進課	関係課	
-----	-----------	-----	--

ア 体系区分

施策区分	施策Ⅲ-② 木質バイオマスエネルギー等の活用
この施策の中で取り組む事業	55 再生可能エネルギー推進事業 56 薪ステーション「木材利用でエコな生活を」 57 エコビレッジ住宅ゾーン基本計画策定及び分譲事業

※ KPI（重要業績評価指標）は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する「取り組む事業」の全てがKPIに関係するとは限りません。

KPI 14		木質ペレット利用量								
指標の説明、確認方法		南砺市の公共施設における1年間のペレット利用量								
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値					5年間の目標値	単位	H28年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度					
	188	296	404	512	620					
80	(前年に対する変化目標)					620	t	422	68%	143%
	108	108	108	108	108					

達成率の計算方法(一部、例外有り)

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率=(「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」)×100

ウ 内部評価

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に	A:かなりの効果があった(8割以上) B:まずまずの効果があった(7割程度) C:少しは効果があった(改善・進展) D:まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E:効果が見込めない(悪化・停滞)
A		
公共施設6施設へのボイラー導入に伴い一定量の進捗を確保していることからA判定。 今後はペレット工場の整備に伴い、需給システムが整うことで循環型のシステム構築につなげていく。		

エ 外部評価

各委員の評価	◎:効果があった ○:少しは効果があった △:現段階ではまだ判断できない ●:効果が見込めない
	各委員の意見
△	本年度からより本格化していくべき事業。
△	
○	一定の利用効果が見られる。
○	地域資源の有効活用に期待。
◎	拡充に期待。
△	数値目標3-2-1との違い・関係がよくわからない。薪とペレットは同じなのか?上位の数値目標と政策体系、KPIとの関係がよくわかりません。
○	安定供給が鍵。
◎	
△	あれば使うが、市民が活用するのは難しい。
○	今後に期待している
総合評価	評価内容
○	一定の利用効果が見られる事は評価。今後のさらなる活用に期待したい。

オ 今後の取り組みと改善点

平成30年3月までに工場は完成予定であり、地元木材の利用促進によりさらなる活用を図る。受給体制が整うことで循環システムが構築できる。
--

平成 28 年度事業の南砺市総合戦略推進委員会による事業実施成果検証・評価・意見

主管課	農林課	関係課	教育総務課
-----	-----	-----	-------

ア 体系区分

施策区分	施策Ⅲ-③ 地産地消推進による食の自給率向上
この施策の中で 取り組む事業	58 地場産農作物消費向上事業
	59 農産物直売所5億円産業化
	60 南砺の食材を使用した健康管理食・病態食の製造販売支援

※ K P I (重要業績評価指標)は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する“取り組み事業”の全てがK P Iに関係するとは限りません。

K P I 15		小中学校給食における地元産品使用率								
指標の説明、 確認方法		富山県農産食品課調査「元気とふれあい学校給食づくり事業」への報告値(4月～翌年3月)								
現状値 (H26 年度)	年度時点の目標数値					5年間の 目標値	単位	H28 年度 実績値	5年間の目標値 に対する 達成率(%)	年度時点の目標 数値に対する達 成率(%)
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度					
29.5	30	31.3	32.5	33.8	35	35	%	27.98	80%	89%
	(前年に対する変化目標)									
	0.5	1.3	1.2	1.3	1.2					

達成率の計算方法(一部、例外有り)

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率=(「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」)×100

ウ 内部評価

年度時点の達成率 に対する事業効果	総合戦略に	A:かなりの効果があった(8割以上) B:まずまずの効果があった(7割程度) C:少しは効果があった(改善・進展) D:まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E:効果が見込めない(悪化・停滞)
C		
天候不良等により、食材の地元調達が充分でなかったことからC判定。 J Aや農家との連携を深め積極的な事業展開が必要である。		

エ 外部評価

各委員 の評価	◎:効果があった ○:少しは効果があった △:現段階ではまだ判断できない ●:効果が見込めない
各委員の意見	
△	生徒達への食育の重要性を学んでもらう出前講座や、家庭等への啓もう活動の強化を図るべき。
△	
○	地元調達に向け安定確保。J A等との連携強化。
○	地産地消につながる供給体制の整備をお願いする。
○	今後に期待。
△	給食に地元産品を増やしていくこと自体はとても重要で◎。だが、戦略事業58の目標が、他2事業を含む施策群のK P Iになっている。掲げるべきK P Iの再検討が必要なのでは?
○	特産品を使った「ふるさと給食」など郷土学習にもつながるので、引き続き積極的に展開。
△	
○	連携や仕組みができれば、より新鮮でおいしい給食になると思う。
○	広く地元の農業を支える仕組みへ。農家との連携、柔軟な献立対応。旬の食材や農家の想いも伝わる給食へ。給食は子ども達の体と心を育てる。
総合評価	評価内容
○	取り組みについては一定の評価をするが、安定確保のため供給体制の整備を。あわせて出前講座や家庭等への啓もう活動を強化すべき。

オ 今後の取り組みと改善点

安定供給へ向け、J A等と協議を進めていく。あわせて、家庭への効果波及をねらい、食育等の取り組みを進める。
---

主管課	農林課	関係課	文化・世界遺産課
-----	-----	-----	----------

**ア 体系区分**

施策区分	施策Ⅲ-④ 南砺の農林水産業の維持と新たな挑戦		
この施策の中で 取り組む事業	61	6次産業化支援融資事業	67 「森の学校」の創設
	62	市民農園等小規模農地の貸付制度	
	63	なんと農村定住事業	
	64	新規就農支援事業の実施	
	65	とやま型冬期林業チャレンジ支援事業	
	66	五箇山茅場の造成補助事業	

※ K P I (重要業績評価指標) は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する「取り組む事業」の全てが K P I に関係するとは限りません。

<b>K P I 16</b>		<b>6次産業化に取り組む事業者数</b>								
指標の説明、 確認方法		市内の団体、組合等が提出する農山漁村6次産業化対策事業の実実施計画に国から承認を受けた団体数の合計								
現状値 (H26 年度)	年度時点の目標数値					5年間の 目標値	単位	H28 年度 実績値	5年間の目標値 に対する 達成率(%)	年度時点の目標 数値に対する達 成率(%)
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度					
1	1	5	10	15	20	20	件	0	0%	0
	(前年に対する変化目標)									
	0	4	5	5	5					

達成率の計算方法(一部、例外有り)

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率=(対象年度の実績値) / 「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」 × 100

**ウ 内部評価**

年度時点の達成率 に対する事業効果	総合戦略に	A:かなりの効果があった(8割以上) B:まずまずの効果があった(7割程度) C:少しは効果があった(改善・進展) D:まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E:効果が見込めない(悪化・停滞)
D		
実績がないことからD判定。 6次化を考えている営農組織の洗い出しを行い、成果の出ない原因、事業内容をしっかりと見極め、積極的な事業展開を行う必要がある。		

**エ 外部評価**

各委員 の評価	◎:効果があった ○:少しは効果があった △:現段階ではまだ判断できない ●:効果が見込めない
	各委員の意見
△	農業、林業への取り組み施策の見直し、連携強化も含め、今後のビジョニング(オーガニック等)を急ぐべき。
●	
△	実績なし、判定できない。
△	農商工連携も含めて事業者の発掘に市として積極的に関与してほしい。
△	PRを積極的にすべき。
△	K P I 数値は振るわないが、傘下事業毎の活動・検証は丁寧に進められている。6次化は地域農林業持続可能性のキモとなる部分。農林業は周期が長く大変だと思うが継続対応に期待。
△	判定できない。
●	
△	就農に関する事業のPRや周知、支援もたくさんあるので認知されているか、他の自治体との差別化はされているのか。
△	長期的な農業、林業の在り方として多方面で期待している。
総合評価	評価内容
△	判断できない。取り組み施策の見直し、連携強化も含め、今後のビジョンを急ぎ示すべき。

**オ 今後の取り組みと改善点**

見直しにより、K P I を間伐を行った面積へと変更する。戦略事業67の推進により増加を目指す。
--

主管課	農林課	関係課	地方創生推進課
-----	-----	-----	---------

**ア 体系区分**

施策区分	施策Ⅲ-⑤ 森里川海のつながりでいのち湧く地域の形成
この施策の中で 取り組む事業	68 自然環境保全活動推進事業
	69 富山県西部圏域連携都市圏の形成

※ K P I (重要業績評価指標) は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する「取り組む事業」の全てがK P Iに関係するとは限りません。

<b>K P I 17</b>		<b>企業の森植樹本数</b>								
指標の説明、 確認方法		民間企業と市が連携して行う植樹事業において植樹する合計本数								
現状値 (H26 年度)	年度時点の目標数値					5年間の 目標値	単位	H28 年度 実績値	5年間の目標値 に対する 達成率(%)	年度時点の目標 数値に対する達 成率(%)
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度					
	11000	12000	13000	14000	15000					
10000	(前年に対する変化目標)					15000	本	12000	80%	100%
	1000	1000	1000	1000	1000					

達成率の計算方法(一部、例外有り)

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率=(「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」)×100

**ウ 内部評価**

年度時点の達成率 に対する事業効果	総合戦略に	A:かなりの効果があった(8割以上) B:まずまずの効果があった(7割程度) C:少しは効果があった(改善・進展) D:まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E:効果が見込めない(悪化・停滞)
A		
年度目標を達成しておりA判定。 更なる民間活力導入を目指し、積極的な働きかけを行う必要がある。		

**エ 外部評価**

各委員 の評価	◎:効果があった ○:少しは効果があった △:現段階ではまだ判断できない ●:効果が見込めない
各委員の意見	
○	地域循環共生圏の整備の中で位置づけて推進すべき。
◎	継続実施
○	木質ペレットも含めた森林の維持・活用に期待。
◎	継続的に取り組みを。
△	戦略事業68とK P Iが全く同じ。この数値だけみると順調◎な印象だが、戦略事業69はどこにいったのですか？
○	有効。
◎	
◎	植樹もいいが、杉の有効活用や伐採もとりくんで頂ければなお良いだろう。
○	
総合評価	評価内容
○	継続的取り組みに期待。

**オ 今後の取り組みと改善点**

K P Iが事業68と同じであり、また数値目標との関連も薄いことからK P Iを削除する。	
---	--

主管課	行革・施設管理課	関係課	
-----	----------	-----	--

**ア 体系区分**

施策区分	施策Ⅲ-⑥ 公共施設再編計画の実現
この施策の中で 取り組む事業	70 公共施設再編後の施設を活用した企業誘致
	71 小さな拠点「山の駅」事業

※ K P I (重要業績評価指標) は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する「取り組む事業」の全てが K P I に関係するとは限りません。

<b>K P I 18</b>	<b>公共施設縮減延床面積</b>									
指標の説明、 確認方法	南砺市公共施設再編計画に基づき統合、譲渡、解体等により縮減した公共施設の面積									
現状値 (H26 年度)	年度時点の目標数値					5年間の 目標値	単位	H28 年度 実績値	5年間の目標値 に対する 達成率(%)	年度時点の目標 数値に対する達 成率(%)
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度					
0	0	4800	22800	40800	58800	58800	m <sup>2</sup>	660	1%	14%
-	(前年に対する変化目標)									
		4800	18000	18000	18000					

達成率の計算方法(一部、例外有り)

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率=(「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」)×100

**ウ 内部評価**

年度時点の達成率 に対する事業効果	総合戦略に	A:かなりの効果があった(8割以上) B:まずまずの効果があった(7割程度) C:少しは効果があった(改善・進展) D:まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E:効果が見込めない(悪化・停滞)
D		
<p>現在交渉を進めているものの、まだ実績に上がっていないことからD判定。 丁寧な交渉とともに、結論が出た施設については、早期に公募等による譲渡を進め施設の縮減を図っていく。</p>		

**エ 外部評価**

各委員 の評価	◎:効果があった ○:少しは効果があった △:現段階ではまだ判断できない ●:効果が見込めない
	各委員の意見
△	利賀行政センター事例を他地域に展開できないか検討を行うべき。
●	
△	地元の活用も十分視野に、慎重に協議を進めるべき。
△	
△	今後に期待。
○	目標値が非常に大きいため達成率は低いが、傘下戦略事業71の山の駅事業は非常に優れた取り組みで成果も上がっており、本項全体のモデルとなり得る。ノウハウの水平展開に期待。
△	判断できない。
●	
△	地域によっては、進んでいて良いが、空いた施設の活用や処分も難しそう。
△	
総合評価	評価内容
△	判断できない。戦略事業71の取り組みを他地域に展開できないか。

**オ 今後の取り組みと改善点**

現在、譲渡交渉を進めているが課題も多く、早急な進捗は望めない。譲渡の課題を調査したところであり、その解決策を早急に検討し、年度内に新たな再編推進制度の創設を目指したい。併せて、活用提案募集施設を倍増させるとともに、新聞各社、HP、地元金融機関等とも連携し、活用提案募集の周知に努めていきたい。  
また、企業誘致を実現するための指標としては、再編面積を増やすことが直接的に企業誘致に結びつくものではないことから、公募により譲渡先を募集した施設数及び活用提案募集を求めた施設に K P I を変更する。

主管課	南砺で暮らしません課	関係課	
-----	------------	-----	--

**ア 体系区分**

基本目標	基本目標Ⅳ 文化・芸術・景観・ひとが紡ぐ交流のまち創造
この基本目標に対応する具体的施策(施策区分)	① 移住定住施策の推進 ② 市民がつながり、交流する仕組みづくりの支援 ③ 交流観光の推進 ④ 貢献市民の拡大 ⑤ 「文化芸術創造都市」としての魅力さをさらに高める ⑥ 高校、高専、大学、大学院、民間企業などとの連携の拡充

※ KPI (重要業績評価指標) は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する「取り組み事業」の全てがKPIに関係するとは限りません。

**イ 指標と達成率**

数値目標 4-1-1	年間転入転出者数	関連する施策区分	①②						
指標の説明、確認方法	年間転入者数(4月～翌年3月) ※達成度の算出にあたっては、H26からの増加分(62人)を、H26からの増加目標(19人)で割ることで算出している。								
現状値(H26年度)	年度時点の目標数値				5年間の目標値	単位	H28年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度					
1012	1022	1031	1041	1050	1060	人	1074	129%	326%
	(前年に対する変化目標)								
	10	9	10	9	10				

達成率の計算方法(一部、例外有り)

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率=(「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」)×100

**ウ 内部評価**

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に A:かなりの効果があった(8割以上) B:まずまずの効果があった(7割程度) C:少しは効果があった(改善・進展) D:まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E:効果が見込めない(悪化・停滞)
A	
年間目標値を達成しておりA判定。民間賃貸住宅居住補助金を開始した翌年のH25年度から砺波市との転入転出数が大きく改善している(H23:△98、H24:△69、H25:+15、H26:△17、H27:△5人)。また、市外からの移住者(転入奨励金等交付対象世帯人数)も増えている(H27:172人、H28:193人)こと等から、様々な施策が反映し成果となっているものと思われる。	

**エ 外部評価**

各委員の評価	◎:効果があった ○:少しは効果があった △:現段階ではまだ判断できない ●:効果が見込めない
各委員の意見	
○	地域別、世代別の細かな要因分析を踏まえて、社会減の食い止めに注力していかなくてはならない。そのためには、各課横断での戦略事業の統合再整理が必須。また、各支援策の内外での告知強化が肝要。
○	
◎	目標値が達成されており市外からの移住者も増加傾向にあることから成果は上がっていると考えられる。
○	
◎	転入・転出の理由を分析し対策を
◎	転出者との兼ね合いから社会増には至っていないが、基準年度対比、高水準の転入者を確保・維持できている。若者・子育て世代等の年齢別、旧町村別など、活動深化に期待。
○	定住施策が有効に働いた。
△	4-1-1、4-1-2は一体として評価すべき。転入増は喜ぶべきだが転出増えれば意味が薄れる
◎	今の時代の流れと南砺の風土や文化が相乗効果があり、移住者も増えている。
○	
総合評価	評価内容
○	目標達成は評価。転入理由や年齢別など分析し、取り組みの深化を。

**オ 今後の取り組みと改善点**

年間目標値を達成していることから、一定の効果が発揮されているものと思われるが、移住定住を直接的に支援する各種の事業(保育料無料制度、雇用対策事業、五箇山に住まんまい家、ふるさと回帰、定住支援)の普及PRに努める。また、今後移住定住に結びつく施策としての山村留学定住事業や移住コンシェルジュ事業についても、「一流の田舎暮らし」をキャッチフレーズとした南砺市らしい移住定住の推進を図り、転入数の増加に努めたい。
---

主管課	南砺で暮らしません課	関係課	
-----	------------	-----	--

**ア 体系区分**

基本目標	基本目標Ⅳ 文化・芸術・景観・ひとが紡ぐ交流のまち創造
この基本目標に対応する具体的施策(施策区分)	① 移住定住施策の推進 ② 市民がつながり、交流する仕組みづくりの支援 ③ 交流観光の推進 ④ 貢献市民の拡大 ⑤ 「文化芸術創造都市」としての魅力さをさらに高める ⑥ 高校、高専、大学、大学院、民間企業などとの連携の拡充

※ KPI (重要業績評価指標) は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する“取り組み事業”の全てがKPIに関係するとは限りません。

**イ 指標と達成率**

数値目標 4-1-2	年間転入転出者数	関連する施策区分	①②						
指標の説明、確認方法	年間転出者数(4月～翌年3月) ※達成度の算出にあたっては、H26からの増加分(46人)を、H26からの減少目標(17人)で割ることで算出している。なお、実績値が減少目標から見て負の値となっているため、達成度も負の数字になる。								
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値				5年間の目標値	単位	H28年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度					
1242	1234	1225	1217	1208	1200	人	1288	-110%	-271%
	(前年に対する変化目標)								
	-8	-9	-8	-9	-8				

達成率の計算方法(一部、例外有り)

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率=(対象年度の実績値)÷「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」×100

**ウ 内部評価**

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に A:かなりの効果があった(8割以上) B:まずまずの効果があった(7割程度) C:少しは効果があった(改善・進展) D:まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E:効果が見込めない(悪化・停滞)
D	

実績値が目標値に届いておらずD。短期的には、まだ施策の効果が反映していない。転出先は、砺波市が最も多く、次いで首都圏や富山市が続く。また、国外への転出も年200人程度あり、技能実習制度の修了が想定される。年代としては、20歳代前半世代が首都圏へ、20歳代から30歳代の子育て家庭の砺波市へ、30歳代では高岡市への転出が多い。地域別では、福野、福光の転出が増加傾向にあり、両地域で全転出者の6割を占めている。今後、地域ごとの特性に目を向けた分析や施策の展開が必要となってくる。

**エ 外部評価**

各委員の評価	◎:効果があった ○:少しは効果があった △:現段階ではまだ判断できない ●:効果が見込めない
	各委員の意見
△	地域別、世代別の細かな要因分析を踏まえて、社会減の食い止めに注力していかなくてはならない。そのためには、各課横断での戦略事業の統合再整理が必須。また、各支援策の内外での告知強化が肝要。
△	
△	施策の効果が十分発揮されていない。目標値を下回っている分析の必要有。
△	
△	転入・転出の理由を分析し対策を
△	結婚・子育て・持ち家等、長期定住が期待できる年代への短～中期対応、小中高生へのふるさと教育や大学生の奨学金支援など中長期の対応、と、地道で総合的な対応継続を。
△	地域ごとの分析が必要ではないか。
△	4-1-1、4-1-2は一体として評価すべき。転入増は喜ぶべきだが転出増えれば意味が薄れる
△	20代、30代の転出はやはり仕事の選択肢が少ないことだが、故郷に錦を飾る人、戻って起業する人が増えればいい。
△	子育て家庭の転出は南砺市が子を産み育てやすい環境との理解が得られていない表れ。ふるさと教育やUターン等にも関わるので、子育て家庭の転出は原因を明確にしくい止めたい。
総合評価	評価内容
△	転出理由や地域別、世代別の分析が必要。社会減を食い止めるために戦略事業の整理や支援策の告知強化など対策を。

**オ 今後の取り組みと改善点**

転出者数の抑制には、南砺市に愛着を感じている子どもたちを増やすためのふるさと教育が重要と考えられるため、更なる事業の推進が必要である。また、公共交通を含め南砺に住み続けたいと感じる人を増やすことも重要であることから、公共交通環境の強化や三世同居、地域の困りごと解決事業などの積極的なPRと推進に努め、転出数の抑制を図りたい。
--



主管課	地方創生推進課	関係課	
-----	---------	-----	--

**ア 体系区分**

基本目標	基本目標Ⅳ 文化・芸術・景観・ひとが紡ぐ交流のまち創造
この基本目標に対応する具体的施策(施策区分)	① 移住定住施策の推進 ② 市民がつながり、交流する仕組みづくりの支援 ③ 交流観光の推進 ④ 貢献市民の拡大 ⑤ 「文化芸術創造都市」としての魅力さをさらに高める ⑥ 高校、高専、大学、大学院、民間企業などとの連携の拡充

※ KPI (重要業績評価指標) は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する“取り組み事業”の全てがKPIに関係するとは限りません。

**イ 指標と達成率**

数値目標 4-2	貢献市民の人数	関連する施策区分	③④⑤						
指標の説明、確認方法	市外に住みながらも、南砺市を心に想い、集い、実践される方。第2住民登録をされた人数の合計								
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値				5年間の目標値	単位	H28年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度					
0	0	300	500	650	800	人	70	9%	23%
	(前年に対する変化目標)								
	-	300	200	150	150				

達成率の計算方法(一部、例外有り)

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率=(「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」)×100

**ウ 内部評価**

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に A:かなりの効果があった(8割以上) B:まずまずの効果があった(7割程度) C:少しは効果があった(改善・進展) D:まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E:効果が見込めない(悪化・停滞)
D	
平成28年10月より制度を開始しており、年度目標の半分に満たないためD判定。2段階での募集を行っており、第1段階での「現在活動を行っている方」として、候補者120人をリストアップしたあとの声かけが遅れているので、今年度の活動の際に登録されるよう声かけを行う。H29年度に入り、第2段階として一般公募をスタート。関東関西にある南砺市出身会やお盆・正月の帰郷者への声かけなど行うほか、登録者へのインセンティブの検討、具体的な応援活動メニューの作成を行うほか、ふるさと寄付金と連携もしながら、今年度の目標人数に前年度積み残しを加えた470人を目指す。	

**エ 外部評価**

各委員の評価	◎:効果があった ○:少しは効果があった △:現段階ではまだ判断できない ●:効果が見込めない
	各委員の意見
△	いかに告知を進めていくかが一番重要。(マーケティングによる有効なPR活動を推進すべき)
●	PR、やる気度、制度設計が低い。本気で取り組むべき問題。
△	各方面への呼びかけとフォローアップに期待する。
△	具体的にどれだけの効果があるか判断できない。
△	積極的な声掛けが重要。
△	切り口◎。ふるさと納税への御礼&リピート依頼、市内宿泊者への再訪依頼を兼ねたPRの工夫。特産品モニターやアンケート回答等に対する市内利用可ポイント付与等のインセンティブ工夫、等活性化を。
△	市内イベント時のPRなどなされているか。二地域居住者にも情報を。インセンティブ不足。
△	
△	富山は郷土愛が強い人は多いと思うが、「貢献市民」になりたいとは思わない。けど想いがある人は多いので、参加したいと思う企画があれば。
△	
総合評価	評価内容
△	PR活動の推進を。インセンティブにも工夫が足りないのでは。

**オ 今後の取り組みと改善点**

現在、関東関西の出身会を中心に声かけを行っており、会員は約130人と昨年度末から倍増。出身会の方中心だが、利賀に関しては大学生の登録が中心である。今後、県内在住者の取り込みに努めるほか、応援市民のうち市外で声かけしてもらえる方を特派員として依頼し、応援市民の告知を含め市の情報を拡散してもらう予定である。KPIとの関連性が薄かったことから、観光客の増⇒南砺のファン増⇒応援市民の増とつながるようKPIを再構築する。
---

主管課	地方創生推進課	関係課	
-----	---------	-----	--

**ア 体系区分**

基本目標	基本目標Ⅳ 文化・芸術・景観・ひとが紡ぐ交流のまち創造
この基本目標に対応する具体的施策(施策区分)	① 移住定住施策の推進 ② 市民がつながり、交流する仕組みづくりの支援 ③ 交流観光の推進 ④ 貢献市民の拡大 ⑤ 「文化芸術創造都市」としての魅力さをさらに高める ⑥ 高校、高専、大学、大学院、民間企業などとの連携の拡充

※ KPI (重要業績評価指標) は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する「取り組み事業」の全てがKPIに関係するとは限りません。

**イ 指標と達成率**

数値目標 4-3	提携大学数	関連する施策区分	⑥							
指標の説明、確認方法	南砺市と官学連携事業を共同で実施する提携を結んだ大学数の合計									
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値				5年間の目標値	単位	H28年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)	
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度						H31年度
1	2	3	4	5	6	6	大学	5	83%	167%
	(前年に対する変化目標)									
	1	1	1	1	1					

達成率の計算方法(一部、例外有り)

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率=(「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」)×100

**ウ 内部評価**

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に A: かなりの効果があった(8割以上) B: まずまずの効果があった(7割程度) C: 少しは効果があった(改善・進展) D: まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E: 効果が見込めない(悪化・停滞)
A	
H28年度時点での目標値は達成しておりA判定。関連するKPI24も上昇しており、官学連携の事業を進めることが数値目標の向上に結びついている。平成29年度でも既に県立大学と提携している。 (提携大学) 県内: 富山大学、富山国際大学、 県外: 金沢大学、金沢美術工芸大学、北海道大学	

**エ 外部評価**

各委員の評価	◎: 効果があった ○: 少しは効果があった △: 現段階ではまだ判断できない ●: 効果が見込めない
	各委員の意見
○	市民への告知(各大学別特色と投資への貢献効果)をより広範囲に進めるべき。
○	
◎	現況で進められたい。
◎	
◎	地域活性化につながる事業である。
○	提携後は大学の教育・研究の考え方と課題を理解して活用を。教育は学生への南砺特有の教育的効果訴求が、研究は研究者の狭い専門をどう幅広い現場課題に引き出すか、が課題。
○	有効。
◎	
○	先日、山村振興事業で、金沢美術工芸大学の先生から官学できればいいですね、と言って頂いた。可能性を感じる。
◎	
総合評価	評価内容
○	提携後は大学の専門をいかに生かすか等課題も。

**オ 今後の取り組みと改善点**

地域課題の解決に大学等の高等教育機関の知見を活かすため、幅広い大学との連携を進めると共に、KPI24の実施事業数の伸びにつながるよう、地域へも成功事例などを提供しながら、相談しやすい体制づくりを進める。  
 また、地域の活動へ大学生にボランティア等での協力をいただけるよう、大学に向けて地域の活動に関する情報提供を進め、学生と地域の距離感を縮めたい。

平成 28 年度事業の南砺市総合戦略推進委員会による事業実施成果検証・評価・意見

主管課	南砺で暮らしません課	関係課	こども課、交流観光まちづくり課
-----	------------	-----	-----------------

ア 体系区分

施策区分	施策Ⅳ-① 移住定住施策の推進		
この施策の中で 取り組む事業	72	移住定住者の保育料無料制度	78 定住支援事業
	73	定住促進雇用対策事業	
	74	五箇山地域に住まんまい家プロジェクト	
	75	ふるさと回帰転入助成事業	
	76	里帰り行こうよ、住もうよモニターツアー、観光PR事業	
	77	移住コンシェルジュ事業	

※ KPI（重要業績評価指標）は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する“取り組む事業”の全てがKPIに関係するとは限りません。

KPI 19		転入奨励金の年間交付件数								
指標の説明、 確認方法		定住奨励金制度「南砺で住んでみんまいけ事業」の内の、転入奨励金の補助件数（4月～翌年3月）								
現状値 (H26 年度)	年度時点の目標数値					5年間の 目標値	単位	H28 年度 実績値	5年間の目標値 に対する 達成率(%)	年度時点の目標 数値に対する達 成率(%)
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度					
20	22	24	26	28	30	30	件	34	113%	142%
	(前年に対する変化目標)									
	2	2	2	2	2					

達成率の計算方法（一部、例外有り）

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率＝（「対象年度の実績値」／「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」）× 100

ウ 内部評価

年度時点の達成率 に対する事業効果	総合戦略に	A：かなりの効果があった（8割以上） B：まずまずの効果があった（7割程度） C：少しは効果があった（改善・進展） D：まだ効果が出ていない（現段階ではまだ判断できない・未実施含む） E：効果が見込めない（悪化・停滞）
A		
年間目標値を達成しておりA判定。年々周知が浸透しているものと思われる。H28年度は34件のうち、県内からの移住者が25件で、中でも砺波市からの移住が9件、富山市から6件と多かった。ただし、移住先の4割が福野地域で井波・福光を含めると8割となることから、三世代同居の推奨も重要である。		

エ 外部評価

各委員 の評価	◎：効果があった ○：少しは効果があった △：現段階ではまだ判断できない ●：効果が見込めない
各委員の意見	
○	74は52, 53や32, 33と統合して考えるべき。移住と空き家活用の連携も進めていくべき。
○	
○	目標値は達成されており、継続して施策を実施すべきと考える。
○	件数が多いのか少ないのか判断できないが、一定の効果はあるものと思料。
◎	様々なイベントなどでPR必要。
○	成果数値は◎。傘下各戦略事業で、効果が上がっているものについては転入に結びついているか、周知不足のものは周知が図れれば転入増に貢献するのか、検証の上、精度向上を。
○	有効。
◎	
◎	引越しは出費が大いなのでありがたい。入りやすいのはよい。出ていきやすくもあるので、受け皿（受け入れ地域）も共に成長できれば尚よし。
○	
総合評価	評価内容
○	目標は達成していることは評価。事業について検証をし、さらなる精度向上を。

オ 今後の取り組みと改善点

年間目標値を達成しているが、継続的安定的に効果が発揮されるよう、様々な広報ツールや場面を活用し、転入奨励金事業のPRに努めたい。
--

主管課	地方創生推進課	関係課	南砺で暮らしません課
-----	---------	-----	------------

**ア 体系区分**

施策区分	施策Ⅳ-② 市民がつながり、交流する仕組みづくりの支援
この施策の中で 取り組む事業	79 なんと市民開催 まちづくり塾支援事業
	80 南砺版求人バンクで地域活性化（地域の困りごと解決）
	81 なんとポイント事業

※ KPI（重要業績評価指標）は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する“取り組み事業”の全てがKPIに関係するとは限りません。

<b>KPI 20</b>	<b>民間実施のまちづくり塾年間参加者数</b>									
指標の説明、 確認方法	行政が助成し、市民団体等が開催するまちづくりに関する講演会、講座等へ参画した人数（年間）									
現状値 (H26 年度)	年度時点の目標数値					5年間の 目標値	単位	H28 年度 実績値	5年間の目標値 に対する 達成率(%)	年度時点の目標 数値に対する達 成率(%)
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度					
0	0	0	100	100	100	100	人	0	0%	0
-	-	100	0	0						

達成率の計算方法（一部、例外有り）

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率＝（対象年度の実績値）／「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」）× 100

**ウ 内部評価**

年度時点の達成率 に対する事業効果	総合戦略に	A：かなりの効果があった（8割以上） B：まずまずの効果があった（7割程度） C：少しは効果があった（改善・進展） D：まだ効果が出ていない（現段階ではまだ判断できない・未実施含む） E：効果が見込めない（悪化・停滞）
D		
年度時点での目標値と同じく、未だ制度が始まっていないためD判定。H29年上半期中に制度要綱を策定次第、事業募集を開始する。H29年度目標達成のため、制度の活用を促すため小規模多機能の取り組みや行動を起こそうとしている人のニーズを把握し支援していきたい。		

**エ 外部評価**

各委員 の評価	◎：効果があった ○：少しは効果があった △：現段階ではまだ判断できない ●：効果が見込めない
	各委員の意見
△	79は他課事業との統合等を早急に検討すべき。80は77との連携等を図るべき。
●	目的が明確でない。意味不明。
△	制度の構築がなされていない。今後の取り組みを再考すべき。
●	判断できない。
△	判断できない。
△	制度設計段階との為、個別戦略事業について。79は他課に類似制度が～との事、それらを援用すれば？80はSNS等を活用しては？81は持続可能な原資捻出がキモ？釈迦に説法ですが。
△	現在のところ判定できないが、民間によるまちづくりを進めていく必要がある。
●	
△	若い人にも参加したいと思える企画もあれば…。
△	
総合評価	評価内容
△	判断できない。他課事業との統合や連携を早急に検討すべき。

**オ 今後の取り組みと改善点**

本KPIの増減が、上位指標である数値目標「転入者数」「転出者数」の増減につながりにくいことから、本指標は事業側の成果指標に留め、KPIをより「転出者数」との関連性の高い「南砺市に愛着を感じている子どもたちの割合」「公共交通を使いやすいと感じる市民の割合」「住み続けたいと思う市民の割合」へと変更し、これらの伸びが転出者抑制につながるよう施策を進めたい。

平成 28 年度事業の南砺市総合戦略推進委員会による事業実施成果検証・評価・意見

主管課	交流観光まちづくり課	関係課	エコビレッジ推進課、商工課、地方創生推進課
-----	------------	-----	-----------------------

ア 体系区分

施策区分	施策Ⅳ-③ 交流観光の推進			
この施策の中で 取り組む事業	82	なんとエコツーリズム事業	88	ふるさとまごころ旅行券助成事業
	83	滞在型彫刻体験等支援事業	89	おもてなしFree Wi-Fi事業
	84	観光客受入環境整備事業		
	85	なんと！幸せのおすそわけキャンペーン		
	86	二次交通対策「なんタク」事業		
	87	コンベンション支援事業		

※ K P I (重要業績評価指標) は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する「取り組む事業」の全てがK P Iに関係するとは限りません。

K P I 21	外国人旅行者年間宿泊者数									
指標の説明、 確認方法	富山県観光課調査「市内外国人観光客宿泊者数」の「年間（1月～12月）」欄の人数									
現状値 (H26 年度)	年度時点の目標数値					5年間の 目標値	単位	H28 年度 実績値	5年間の目標値 に対する 達成率(%)	年度時点の目標 数値に対する達 成率(%)
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度					
	6893	7670	8446	9223	10000					
6116	(前年に対する変化目標)					10000	人	10314	103%	134%
	777	777	776	777	777					

達成率の計算方法(一部、例外有り)

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率=(「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」)×100

ウ 内部評価

年度時点の達成率 に対する事業効果	総合戦略に	A:かなりの効果があった(8割以上) B:まずまずの効果があった(7割程度) C:少しは効果があった(改善・進展) D:まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E:効果が見込めない(悪化・停滞)
A		
<p>年度目標を達成しておりA判定。2020年オリパラに向けて国が進める訪日外国人旅行者促進事業によって国内全体の訪日外国人総数が増加している。 南砺市においては観光客受入観光整備事業(ゲストハウス改修費用助成、世界遺産合掌造り集落内公衆トイレ改修、インターネットを利用した宿泊予約システム作成等)や国内外向けのプロモーション(3つ星街道構成市としてツーリズムEXPOジャパン出展、シンガポールでのトップセールス等)が功を奏し、アセアン諸国や欧米豪からの外国人宿泊者が増加してきている。</p>		

エ 外部評価

各委員 の評価	◎:効果があった ○:少しは効果があった △:現段階ではまだ判断できない ●:効果が見込めない
各委員の意見	
○	84,89と26の連携、85と76の統合が急務。当地の文化イベントの更なる強化・プログラム化で宿泊増を実現する。
○	
◎	効果は十分上がっている。他方インバウンド対策等もあわせ推進すべき。
◎	再訪してもらえる取り組みを期待。
◎	さらなる受入環境の整備を。
○	数値が伸びている事は良いこと。ただ、伸びているからこそ、全国・北陸・近隣市町村等との対比で、年度毎目標777人増が適切であるか?を、検証することも必要なのでは?
○	有効。
◎	
△	外国人の旅行者の増加は時代の流れである。事業の名前が意味わからなくしている。
◎	
総合評価	評価内容
○	伸びている事は評価する。受け入れ環境整備等さらなる取り組みに期待。ただ目標が適切にかについては、他地域と比較するなど検証を。

オ 今後の取り組みと改善点

<ul style="list-style-type: none"> <li>当施策の中で取り組む事業は、外国人だけでなく邦人を重要なターゲットとしていることから、K P I を外国人旅行者年間宿泊者数から、交流人口全体を把握する観光客入込数に変更とする。</li> <li>観光客入込数は、北陸新幹線開業や2020年オリパラ開催もあり増加傾向にあるが、国内外を対象としたプロモーションと、各施策を中心とした受入環境整備の両面をさらに推し進めていく。</li> </ul>
--

主管課	地方創生推進課	関係課	税務課
-----	---------	-----	-----

**ア 体系区分**

施策区分	施策IV-④ 貢献市民の拡大
この施策の中で 取り組む事業	90 貢献市民登録制度
	91 ふるさと寄附金の推進及びふるさと製品の拡大

※ KPI (重要業績評価指標) は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する「取り組み事業」の全てがKPIに関係するとは限りません。

<b>KPI 22</b>		<b>第2住民登録数（貢献市民の人数）（再掲）</b>								
指標の説明、 確認方法		市外に住みながらも、南砺市を心に想い、集い、実践される方。第2住民登録をされた人数の合計								
現状値 (H26 年度)	年度時点の目標数値					5年間の 目標値	単位	H28 年度 実績値	5年間の目標値 に対する 達成率(%)	年度時点の目標 数値に対する達 成率(%)
	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度					
	0	300	500	650	800					
0	(前年に対する変化目標)					800	人	70	9%	23%
	-	300	200	150	150					

達成率の計算方法（一部、例外有り）

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率＝（対象年度の実績値）／「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」×100

**ウ 内部評価**

年度時点の達成率 に対する事業効果	総合戦略に	A：かなりの効果があった（8割以上） B：まずまずの効果があった（7割程度） C：少しは効果があった（改善・進展） D：まだ効果が出ていない（現段階ではまだ判断できない・未実施含む） E：効果が見込めない（悪化・停滞）
D		
<p>平成28年10月より制度を開始しており、年度目標の半分に満たないためD判定。2段階での募集を行っており、第1段階での「現在活動を行っている方」として、候補者120人をリストアップしたあとの声かけが遅れているので、今年度の活動の際に登録されるよう声かけを行う。平成29年度に入り、第2段階として一般公募をスタート。関東関西にある南砺市出身会やお盆・正月の帰郷者への声かけなど行うほか、登録者へのインセンティブの検討、具体的な応援活動メニューの作成を行うほか、ふるさと寄附金と連携もしながら、今年度の目標人数に前年度積み残しを加えた470人を目指す。</p>		

**エ 外部評価**

各委員 の評価	◎：効果があった ○：少しは効果があった △：現段階ではまだ判断できない ●：効果が見込めない
各委員の意見	
△	目標値を初年度高目に設定して獲得に注力。その後のメンテ方策の拡充も重要
●	
△	各方面への呼びかけとフォローアップに期待する。
△	
△	判断できない。
△	切り口◎。ふるさと納税への御礼&リピート依頼、市内宿泊者への再訪依頼を兼ねたPRの工夫。特産品モニターやアンケート回答等に対する市内利用可ポイント付与等のインセンティブ工夫、等活性化を。
△	判断できない。
●	
●	富山の人の保守的な性格に「貢献市民」は合わないと思う。
△	
総合評価	評価内容
△	判断できない。インセンティブの工夫など活性化を。

**オ 今後の取り組みと改善点**

現在、関東関西の出身会を中心に声かけを行っており、会員は約130人と昨年度末から倍増。出身会の方中心だが、利賀に関しては大学生の登録が中心である。今後、県内在住者の取り込みに努めるほか、応援市民のうち市外で声かけしてもらえ方を特派員として依頼し、応援市民の告知を含め市の情報を拡散してもらう予定である。現会員からは、実際の活動がよくわからないとの声もあり、地域からも応援活動の希望が集まらないことから、モデルケースなどで成功事例を作り、効果を伝えることで活動内容の充実にも努める。

主管課	交流観光まちづくり課	関係課	地方創生推進課
-----	------------	-----	---------

**ア 体系区分**

施策区分	施策IV-⑤ 「文化芸術創造都市」としての魅力をさらに高める
この施策の中で取り組む事業	92 TOGA国際芸術村を核としたクリエイティブビレッジ構想

※ KPI（重要業績評価指標）は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する「取り組む事業」の全てがKPIに関係するとは限りません。

<b>KPI 23</b>		<b>文化芸術イベントへの観光客入り込み数</b>								
指標の説明、確認方法		市内で開催されるイベント補助金対象行事への年間入込者数（1月～12月）								
現状値 （H26年度）	年度時点の目標数値					5年間の目標値	単位	H28年度実績値	5年間の目標値に対する達成率（%）	年度時点の目標数値に対する達成率（%）
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度					
	37.6	38.2	38.8	39.4	40					
37	（前年に対する変化目標）					40	万人	35.6	89%	93%
	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6					

達成率の計算方法（一部、例外有り）

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率＝（「対象年度の実績値」／「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」）× 100

**ウ 内部評価**

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に	A：かなりの効果があった（8割以上） B：まずまずの効果があった（7割程度） C：少しは効果があった（改善・進展） D：まだ効果が出ていない（現段階ではまだ判断できない・未実施含む） E：効果が見込めない（悪化・停滞）
C		
<p>年間の観光客入込数全体は1%の増加(349万人⇒352万人)であったが、文化芸術イベントの入込数は、全体として減少したことからC判定。                  増加したイベント：ふくみつ雪あかり祭り(6千人⇒12.5千人)、福野夜高祭(82千人⇒84千人)、城端曳山祭(45千人⇒48千人)                  減少したイベント：利賀そば祭り中止(13千人⇒0人)、城端むぎや祭、荒天に見舞われた(65千人⇒54千人) ※減少2行事の影響が大きかった。</p>		

**エ 外部評価**

各委員の評価	◎：効果があった ○：少しは効果があった △：現段階ではまだ判断できない ●：効果が見込めない
各委員の意見	
△	文化芸術イベントと通常観光とのパッケージ化。リピーターの強化等貢献市民増と連動して推進していくべき
△	
◎	外的要因（天候等）もあるが、概ね順調。ユネスコ無形文化遺産登録効果も期待。
○	今後も積極的に取り組んでもらいたい。
○	PRに工夫を。
△	単年度の変動要因はあるが、戦略事業92の宿泊者増への貢献は読み解ける。が、膨大な投資コストはさておき、事業期間終了後のランニングコストを自前で賄えるか、の検討も必要な時期では？
△	全体を俯瞰することも必要ではないか。
○	
○	五箇山のこきりこ祭りや麦屋まつりの会場をより良くして頂けないでしょうか。誇り高い文化なので。
○	他地域の行事やイベントとの連携。観光客がリピーターや貢献市民へとつながっていけるように。
総合評価	評価内容
○	リピーターの獲得や貢献市民増に繋がるよう進めてもらいたい。

**オ 今後の取り組みと改善点**

・KPI 23「文化芸術イベントへの観光客入込数」は、KPI 21「観光客入込数」の一部であり、施策についても入込数増加の一助となることから、KPI 21へ事業も含め統合する。
--

主管課	地方創生推進課	関係課	南砺で暮らしません課
-----	---------	-----	------------

**ア 体系区分**

施策区分	施策Ⅳ-⑥ 高校, 高専, 大学, 大学院, 民間企業などとの連携の拡充
この施策の中で取り組む事業	93 官学・官民連携事業 94 金沢大学セミナーハウス整備事業

※ K P I (重要業績評価指標) は各施策の取り組み状況を把握するために設定した主要な指標であり、施策区分に関連する“取り組み事業”の全てが K P I に関係するとは限りません。

<b>K P I 24</b>		<b>官学・官民連携の手法を活用した事業実施数</b>								
指標の説明、確認方法		南砺市が官学連携、官民連携の手法を活用して実施した事業数の合計 ※サテライトやセミナーハウスなど1年間を通して活動を行うような事業については1つの事業としてカウント								
現状値 (H26年度)	年度時点の目標数値					5年間の目標値	単位	H28年度実績値	5年間の目標値に対する達成率(%)	年度時点の目標数値に対する達成率(%)
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度					
2	3	4	6	8	10	10	件	12	120%	300%
	(前年に対する変化目標)									
	1	1	2	2	2					

達成率の計算方法(一部、例外有り)

「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」に対する達成率=(「対象年度の実績値」/「5年間の目標値」または「年度時点の目標数値」)×100

**ウ 内部評価**

年度時点の達成率に対する事業効果	総合戦略に	A:かなりの効果があった(8割以上) B:まずまずの効果があった(7割程度) C:少しは効果があった(改善・進展) D:まだ効果が出ていない(現段階ではまだ判断できない・未実施含む) E:効果が見込めない(悪化・停滞)
A		
H28時点での目標値は達成しておりA判定。大学側の連携への意識が高く、地域でも連携に対しての理解、受け入れが進んでいる。戦略事業No. 93, 94も順調で、地域課題解決への貴重な仕組みとして官学連携を活用できている。(官学連携の主な事業) 富山大…地域包括ケア 国際大…サテライトを活用した社会教育事業 県立大…電気柵対策、防災 金沢大…超体験プログラム、セミナー開催		

**エ 外部評価**

各委員の評価	◎:効果があった ○:少しは効果があった △:現段階ではまだ判断できない ●:効果が見込めない
各委員の意見	
○	市民(若年層や高校生等)への幅広い告知に注力すべき。
○	
○	事業効果の検証とあわせ、積極的な展開を。
◎	
◎	さらに拡充を。
○	提携後は大学の教育・研究の考え方と課題を理解して活用を。教育は学生への南砺特有の教育的効果訴求が、研究は研究者の狭い専門をどう幅広い現場課題に引き出すか、が課題。
○	有効と思えるが情報発信が不足しており市民への認知が低いのでは。
◎	
○	地元の大学と連携していくのはとても良いが、金沢大学のセミナーハウスは、そこまでやる価値があるのか。大学内での認知も低いときいている。
○	事業効果があるようだが、まだあまり知られていないのでは？
総合評価	評価内容
○	連携は評価するが、市民に知られていない。情報発信に注力すべき。

**オ 今後の取り組みと改善点**

地域課題の解決に大学等の高等教育機関の知見を活かすため、連携協定を結んだ大学、既に各地域とつながっている大学との連携を深め、地域課題解決につなげたい。実施事業数の伸びにつながるよう、地域へは、大学と市内の地域の連携事例を提供し、大学側には、南砺市の課題リストを提供する体制を整えたい。